

山 鹿 市 議 会 会 議 録

平成 2 7 年（第 5 回） 1 2 月定例会

山 鹿 市 議 会

平成27年（第5回）山鹿市議会12月定例会

会 期 日 程 表

日次	月 日	曜 日	本 会 議	委 員 会
1	11月26日	木	開 会 ・ 提 案 理 由 説 明	
2	11月27日	金	休会（発言通告締切午後5時まで）	
3	11月28日	（土）	休 会	
4	11月29日	（日）		
5	11月30日	月		
6	12月 1 日	火		
7	12月 2 日	水		
8	12月 3 日	木	質疑・一般質問・委員会付託	
9	12月 4 日	金	本会議なし	建設経済
1 0	12月 5 日	（土）	休 会	
1 1	12月 6 日	（日）		
1 2	12月 7 日	月	本会議なし	市民福祉
1 3	12月 8 日	火		総務文教
1 4	12月 9 日	水		議会運営
1 5	12月10日	木	休 会	
1 6	12月11日	金	委員長報告・討論・採決・閉会	

平成27年（第5回）山鹿市議会12月定例会

目 次

第1号（11月26日）	頁
1. 議事日程	3
2. 本日の会議に付した事件	4
3. 出席議員	4
4. 説明のため出席した者	5
5. 事務局職員出席者	5
6. 日程第1 会議録署名議員の指名	7
7. 日程第2 会期の決定	7
8. 日程第3 議案第94号～議案第125号 報告第15号	7
9. 提案理由の説明	8
(1) 議案第94号（幸村総務部長）	8
(2) 議案第95号（幸村総務部長）	9
(3) 議案第96号（阿蘇品市民部長）	9
(4) 議案第97号（阿蘇品市民部長）	9
(5) 議案第98号（原建設部長）	10
(6) 議案第99号（木村教育部長）	10
(7) 議案第100号（木村教育部長）	10
(8) 議案第101号（木村教育部長）	11
(9) 議案第102号（木村教育部長）	11
(10) 議案第103号（木村教育部長）	11
(11) 議案第104号（幸村総務部長）	11
(12) 議案第105号（川崎福祉部次長）	13
(13) 議案第106号（川崎福祉部次長）	13
(14) 議案第107号（中原建設部次長）	14
(15) 議案第108号（川崎福祉部次長）	14
(16) 議案第109号（阿蘇品水道局長）	14
(17) 議案第110号（阿蘇品水道局長）	15
(18) 議案第111号（中原建設部次長）	15
(19) 議案第112号（幸村総務部長）	15

(20) 議案第113号 (木村教育部長)	17
(21) 議案第114号 (幸村総務部長)	18
(22) 議案第115号 (栃原経済部長)	19
(23) 議案第116号 (木村教育部長)	19
(24) 議案第117号 (木村教育部長)	20
(25) 議案第118号 (戸次福祉部長)	20
(26) 議案第119号 (戸次福祉部長)	20
(27) 議案第120号 (栃原経済部長)	20
(28) 議案第121号 (木村教育部長)	21
(29) 議案第122号 (池田副市長)	21
(30) 議案第123号 (池田副市長)	21
(31) 議案第124号 (池田副市長)	21
(32) 議案第125号 (池田副市長)	21
(33) 報告第 15号 (西田経済部首席審議員)	22
10. 散 会	22

第 2 号 (12月 2 日)

1. 議事日程	25
2. 本日の会議に付した事件	25
3. 出席議員	25
4. 説明のため出席した者	26
5. 事務局職員出席者	27
6. 日程第 1 質疑・一般質問	28
(1) 服部 香代君一般質問	28
○幸村総務部長答弁	29
(2) 服部 香代君一般質問	31
○中嶋市長答弁	31
(3) 服部 香代君一般質問	32
○幸村総務部長答弁	34
(4) 服部 香代君一般質問	35
○幸村総務部長答弁	36
(5) 服部 香代君一般質問	37
○木村教育部長答弁	38
(6) 服部 香代君一般質問	40

(7) 富田 弘海君一般質問	40
○木村教育部長答弁	41
(8) 富田 弘海君一般質問	41
○木村教育部長答弁	42
(9) 富田 弘海君一般質問	42
○木村教育部長答弁	43
(10) 富田 弘海君一般質問	43
○木村教育部長答弁	43
(11) 富田 弘海君一般質問	44
○栃原経済部長答弁	45
(12) 富田 弘海君一般質問	45
○栃原経済部長答弁	46
(13) 富田 弘海君一般質問	46
○栃原経済部長答弁	47
(14) 富田 弘海君一般質問	47
○栃原経済部長答弁	48
○中嶋市長答弁	48
(15) 稲葉 昇君一般質問	49
○栃原経済部長答弁	49
(16) 稲葉 昇君一般質問	50
○栃原経済部長答弁	50
(17) 稲葉 昇君一般質問	51
○栃原経済部長答弁	51
(18) 稲葉 昇君一般質問	51
○内野消防本部消防長答弁	52
(19) 稲葉 昇君一般質問	53
○内野消防本部消防長答弁	54
(20) 稲葉 昇君一般質問	54
(21) 北原 昭三君一般質問	55
○戸次福祉部長答弁	56
(22) 北原 昭三君一般質問	56
○戸次福祉部長答弁	57
(23) 北原 昭三君一般質問	58
○戸次福祉部長答弁	58

(24) 北原 昭三君一般質問	59
○戸次福祉部長答弁	60
(25) 北原 昭三君一般質問	60
○戸次福祉部長答弁	60
(26) 北原 昭三君一般質問	61
○中嶋市長答弁	61
(27) 北原 昭三君一般質問	62
○阿蘇品市民部長答弁	63
(28) 北原 昭三君一般質問	64
○阿蘇品市民部長答弁	64
(29) 北原 昭三君一般質問	65
○戸次福祉部長答弁	66
(30) 北原 昭三君一般質問	67
○戸次福祉部長答弁	67
7. 散 会	68

第 3 号 (12月 3 日)

1. 議事日程	71
2. 本日の会議に付した事件	71
3. 出席議員	71
4. 説明のため出席した者	72
5. 事務局職員出席者	73
6. 日程第 1 質疑・一般質問	74
(1) 富丸 洋一郎君一般質問	74
○幸村総務部長答弁	77
(2) 富丸 洋一郎君一般質問	78
○栃原経済部長答弁	80
(3) 富丸 洋一郎君一般質問	81
○中嶋市長答弁	82
(4) 芹川 正美君一般質問	84
○栃原経済部長答弁	84
(5) 芹川 正美君一般質問	85
○栃原経済部長答弁	85
(6) 芹川 正美君一般質問	85

○原建設部長答弁	86
(7) 芹川 正美君一般質問	86
(8) 永田 紘二君一般質問	87
○内野消防本部消防長答弁	87
(9) 永田 紘二君一般質問	88
○内野消防本部消防長答弁	88
(10) 永田 紘二君一般質問	89
○中嶋市長答弁	90
(11) 永田 紘二君一般質問	90
○木村教育部長答弁	91
(12) 永田 紘二君一般質問	92
○木村教育部長答弁	92
(13) 永田 紘二君一般質問	92
○木村教育部長答弁	93
(14) 永田 紘二君一般質問	94
○堀田教育長答弁	94
(15) 永田 紘二君一般質問	94
(16) 丸山 康昭君質疑	95
○木村教育部長答弁	96
(17) 丸山 康昭君一般質問	97
○幸村総務部長答弁	98
(18) 丸山 康昭君一般質問	99
○原建設部長答弁	99
(19) 丸山 康昭君一般質問	99
○中嶋市長答弁	101
(20) 丸山 康昭君一般質問	102
7. 日程第2 委員会付託	103
8. 散 会	103

第4号(12月11日)

1. 議事日程	107
2. 本日の会議に付した事件	108
3. 出席議員	109
4. 説明のため出席した者	110

5. 事務局職員出席者	111
6. 日程第1 議案第94号～議案第125号	112
7. 各委員長の報告	113
(1) 建設経済常任委員長報告	113
(2) 市民福祉常任委員長報告	114
(3) 総務文教常任委員長報告	115
8. 質 疑	116
9. 討 論	116
(1) 丸山 康昭君討論	117
10. 採 決	117
11. 日程追加 日程第2 意見書案第2号	120
12. 提案理由の説明	120
(1) 意見書案第2号(職員朗読)	120
13. 質 疑	122
14. 討 論	122
15. 採 決	122
16. 閉 会	122

1 1 月 2 6 日 (木曜日)

平成27年（第5回）山鹿市議会12月定例会会議録

議 事 日 程（第1号）

平成27年11月26日（木曜日）午前10時開会

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 議案第94号 山鹿市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第95号 山鹿市職員退職手当支給条例の一部を改正する条例
- 議案第96号 山鹿市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第97号 山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例
- 議案第98号 山鹿市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第99号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例
- 議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例
- 議案第101号 山鹿市社会体育施設条例の一部を改正する条例
- 議案第102号 山鹿市立小・中学校体育施設の使用に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第103号 山鹿市立保育園条例の一部を改正する条例
- 議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第5号）
- 議案第105号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）
- 議案第106号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- 議案第107号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）
- 議案第108号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）
- 議案第109号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）
- 議案第110号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第1号）
- 議案第111号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第1号）
- 議案第112号 山鹿市基本構想
- 議案第113号 工事請負契約の締結について
- 議案第114号 財産の譲渡について
- 議案第115号 財産の譲渡について
- 議案第116号 財産の譲渡について
- 議案第117号 財産の譲渡について
- 議案第118号 公の施設の指定管理者の指定について

- (山鹿市山鹿老人福祉センター等)
- 議案第119号 公の施設の指定管理者の指定について
(山鹿市菊鹿健康福祉センター「ひまわり館」)
- 議案第120号 公の施設の指定管理者の指定について
(山鹿灯籠民芸館)
- 議案第121号 公の施設の指定管理者の指定について
(山鹿市民交流センター)
- 議案第122号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第123号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第124号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第125号 人権擁護委員の推薦について
- 報告第 15号 株式会社菊鹿フラワーバンクの経営状況の報告について

○

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○

出席議員（20名）

1 番	服	部	香	代	君
2 番	富	田	弘	海	君
3 番	永	田		健	君
4 番	稲	葉		昇	君
5 番	富	丸	洋一郎		君
6 番	藤	本	峰	秀	君
7 番	北	原	昭	三	君
8 番	芹	川	正	美	君
9 番	藤	原		豊	君
10 番	平	井	邦	廣	君
11 番	吉	本	政	幸	君
12 番	池	田	誠	一	君
13 番	堀		茂	幸	君
14 番	永	田	紘	二	君
15 番	横	手	啓	介	君
16 番	藤	原		弘	君
17 番	太田	黒	鐵	郎	君

18番	丸 山 寛 治 君
19番	寺 崎 勇 児 君
20番	丸 山 康 昭 君

○

説明のため出席した者

市 長	中 嶋 憲 正 君
副 市 長	池 田 永 実 君
教 育 長	堀 田 浩一郎 君
総 務 部 長	幸 村 英 星 君
消防本部消防長	内 野 輝 雄 君
市 民 部 長	阿蘇品 貴 司 君
福 祉 部 長	戸 次 由 夫 君
経 済 部 長	栃 原 栄 一 君
経済部首席審議員	西 田 博 之 君
建 設 部 長	原 弘 文 君
教 育 部 長	木 村 厚 男 君
山鹿市民医療センター 事務部長兼医事課長	飯 田 啓 詩 君
市 民 部 次 長	阿 部 一 行 君
市 民 部 次 長	金 光 一 誠 君
福 祉 部 次 長	川 崎 美 明 君
経 済 部 次 長	早 田 順 二 君
建 設 部 次 長	中 原 忍 君
水 道 局 長	阿蘇品 元 晴 君
教 育 部 次 長	大 森 健 司 君
総 務 課 長	大 林 秀 樹 君
財務課長兼財政係長	中 尾 雄 二 君
国保年金課長	佐 藤 ア キ 君

○

事務局職員出席者

議 会 事 務 局 長	野 田 修 誠 君
局長補佐兼議会総務係長	森 田 英 美 君
議 事 係 長	小 山 天 君
書 記	高 木 善 彦 君

○



○議長（藤原 弘君）

ただいまから平成27年（第5回）山鹿市議会12月定例会を開会いたします。

会議に先立ち、市長から挨拶の申し出がっておりますので、これを許可いたします。中嶋市長。

〔市長 中嶋 憲正君 登壇〕

○市長（中嶋 憲正君）

皆さん、おはようございます。

本日ここに、平成27年12月定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご多用の中、ご出席を賜り厚くお礼を申し上げます。

また、さきの「あいさつの励行、互礼の普及推進条例」制定記念の銘板除幕式に際し、ご臨席をいただきましたことに、この場をおかりいたしまして厚くお礼を申し上げますとともに、市民の皆様と一緒に、全国に誇れる挨拶のまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

さて、早いものでことしも残すところ一月ほどとなりました。この一年を振り返ってみますと、本年は合併後10年間の成果を基礎とした新たな10年のスタート、挑戦の年でありました。

8月25日に熊本県を直撃した台風15号により、農林産物や施設に甚大な被害、加えて、停電により市民生活に多大なる支障が生じました。改めまして、自然災害がもたらす脅威、そして対策への課題を再認識させられたものであります。

一方、明るいニュースといたしましては、11月5日に「水辺プラザかもと」が県内で28カ所目の道の駅登録を受けました。今後も安全で快適な道路交通環境の提供と地域振興へつながることを期待するものであります。

また、ハンドボール女子日本代表「おりひめジャパン」の世界選手権へ向けた最終合宿が山鹿で行われました。12月にデンマークで開催される世界選手権での健闘とリオデジャネイロオリンピックへの出場権獲得を強く願うものであります。そして、これらのことが山鹿の全国的な知名度アップと、各方面への波及効果につながるものと確信するものであります。これもひとえに議会を初め、市民の皆様の力強いご支援のたまものであると大変ありがたく、心から感謝申し上げる次第でございます。

本定例会においてご審議いただきます案件は、条例10件、予算8件、基本構想、工事請負契約の締結1件、財産の譲渡4件、指定管理者の指定4件、人事案件4件、報告1件であります。これら諸議案につきましては、職員がご説明申し上げますの

で、よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げまして、開会の挨拶といたします。お世話になります。

○

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（藤原 弘君）

直ちに、本日の会議を開きます。

日程第1、会議録署名議員の指定を行います。

会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において、平井 邦廣君、藤原 豊君を指名いたします。

○

日程第2 会期の決定

○議長（藤原 弘君）

日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。今期定例会の会期は、本日から12月11日までの16日間としたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、会期は16日間と決定いたしました。

○

日程第3 議案第94号～議案第125号

報告第15号

○議長（藤原 弘君）

日程第3、議案第94号から報告第15号までの全案件を一括議題といたします。

○

議案第 94号 山鹿市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例

議案第 95号 山鹿市職員退職手当支給条例の一部を改正する条例

議案第 96号 山鹿市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例

議案第 97号 山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例

議案第 98号 山鹿市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例

議案第 99号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例

議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例

議案第101号 山鹿市社会体育施設条例の一部を改正する条例

議案第102号 山鹿市立小・中学校体育施設の使用に関する条例の一部を改正する条

例

- 議案第103号 山鹿市立保育園条例の一部を改正する条例
- 議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第5号）
- 議案第105号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）
- 議案第106号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- 議案第107号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）
- 議案第108号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）
- 議案第109号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）
- 議案第110号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第1号）
- 議案第111号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第1号）
- 議案第112号 山鹿市基本構想
- 議案第113号 工事請負契約の締結について
- 議案第114号 財産の譲渡について
- 議案第115号 財産の譲渡について
- 議案第116号 財産の譲渡について
- 議案第117号 財産の譲渡について
- 議案第118号 公の施設の指定管理者の指定について
（山鹿市山鹿老人福祉センター等）
- 議案第119号 公の施設の指定管理者の指定について
（山鹿市菊鹿健康福祉センター「ひまわり館」）
- 議案第120号 公の施設の指定管理者の指定について
（山鹿市灯籠民芸館）
- 議案第121号 公の施設の指定管理者の指定について
（山鹿市民交流センター）
- 議案第122号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第123号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第124号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第125号 人権擁護委員の推薦について
- 報告第 15号 株式会社菊鹿フラワーバンクの経営状況の報告について



○議長（藤原 弘君）

提案理由の説明を求めます。幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

議案第94号 山鹿市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、被用者年金制度の一元化等を図るための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴い、共済年金が厚生年金に統一されたことから、所要の規定の整備を行うものでございます。

附則といたしまして、この条例は、公布の日から施行するものです。

続きまして、議案第95号 山鹿市職員退職手当支給条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、地方公務員等共済組合法及び行政不服審査法の改正並びに消防職員の移管に伴い、司令補以下の消防職員に対する退職手当の加算など、所要の規定の整備を行うものでございます。

附則といたしまして、この条例は、一部の規定を除き、公布の日から施行するものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

阿蘇品市民部長。

〔市民部長 阿蘇品 貴司君 登壇〕

○市民部長（阿蘇品 貴司君）

議案第96号 山鹿市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、印鑑登録証明書の交付手続につきまして、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律、いわゆる番号法に規定する個人番号カードを使用することにより、民間事業者が設置する多機能端末機から、これを行うことができることとする等のため、所要の規定の整備を行うものです。

附則としまして、この条例は、一部の規定を除き、規則で定める日から施行し、必要な経過措置を定めるものです。

続きまして、議案第97号 山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、地方税法施行規則等の一部を改正する省令の施行に伴い、山鹿市税条例等の一部を改正する条例について、所要の規定の整備を行う必要があり、提案するものです。

主な内容につきましては、いわゆる番号法の施行に伴い、納付書及び納入書の定義に係る改正規定を削るほか、番号法の規定を明記するものです。

附則としまして、この条例は、公布の日から施行いたします。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

原建設部長。

[建設部長 原 弘文君 登壇]

○建設部長（原 弘文君）

議案第98号 山鹿市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例について、ご説明いたします。

本案は、新庁舎周辺の用途地域を第1種住居地域から近隣商業地域に変更することにより建築制限が緩和されるため、行政・文化の拠点地区として特別用途地区を指定するに当たり、建築物の建築制限に関する事項について定めるため、条例を改正する必要があります、提案するものです。

改正の内容につきましては、別表に特別用途地区として、行政・文化拠点地区を加え、この地区において建築してはならない建築物を定め、あわせて条文の整備を行うものです。

附則としまして、この条例は、公布の日から施行するものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

木村教育部長。

[教育部長 木村 厚男君 登壇]

○教育部長（木村 厚男君）

議案第99号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例について、ご説明を申し上げます。

本案は、山鹿市立菊鹿中学校寄宿舎を、遠距離対策のスクールバスを導入することにより廃止するため、条例を改正する必要があります、提案するものでございます。

改正の内容は、市立学校の名称及び位置を規定する別表中より、同寄宿舎を削除するものです。

附則といたしまして、この条例は、平成28年4月1日から施行するものです。

続きまして、議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例について、ご説明を申し上げます。

本案は、学校再編整備事業のうち、米野岳中学校校区の米田小学校、千田小学校、米野岳小学校、山内小学校の4校を統合して、新たに設置する小学校の名称を定めるため、条例の改正を行うものです。

改正の内容は、平成27年6月に条例第33号として公布いたしました山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の別表中におきまして、仮称としております統合小学校

の名称を「山鹿市立めのだけ小学校」に改めるものです。

附則といたしまして、この条例は、公布の日から施行するものです。

続きまして、議案第101号 山鹿市社会体育施設条例の一部を改正する条例について、ご説明を申し上げます。

本案は、山鹿市広見運動場を廃止するため、条例を改正する必要性があり、提案するものでございます。

改正の内容は、社会体育施設の名称と位置、開館時間、使用料等について定める各別表から、山鹿市広見運動場に関する部分を削除するものです。

附則といたしまして、この条例は、公布の日から施行するものです。

続きまして、議案第102号 山鹿市立小・中学校体育施設の使用に関する条例の一部を改正する条例について、ご説明を申し上げます。

本案は、社会体育施設として市民の使用に供する学校施設の見直し等に伴い、条例を改正する必要性があり、提案するものでございます。

改正内容は、屋外運動場に夜間体育照明設備を附置する学校のうち、学校の統廃合に伴い、菊鹿地区の2校を新たに開校する「山鹿市立菊鹿小学校」に改め、また、既に設備を廃止している鶴城中学校を削除するものです。

附則といたしまして、この条例は、平成28年4月1日から施行するものです。

続きまして、議案第103号 山鹿市立保育園条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、山鹿市公立保育園・幼稚園再編整備計画の基本方針の一つであります行政と民間の協働という考え方に立ち、山鹿市立岩野保育園の設置運営を社会福祉法人へ移譲することに伴い、条例の一部を改正する必要性があり、提案するものです。

改正の内容は、保育園の名称及び位置を規定する別表中より、同保育園を削るものでございます。

附則といたしまして、この条例は、平成28年4月1日から施行するものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第5号）について、ご説明申し上げます。

1 ページをお願いいたします。

第1条、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に9409万4000円を追加し、

総額を295億7910万4000円とするものであります。

5 ページをお願いいたします。

第2表 債務負担行為補正であります。台風15号に係る被災農家への台風被害対策資金利子補給2件について、追加するものです。

補正予算の主なものにつきまして、歳出によりご説明申し上げます。

今回の補正予算につきましては、人事異動に係る職員給の調整を計上いたしております。

15ページをお願いいたします。

(款)総務費、(目)選挙管理委員会費の補正額135万5000円は、公職選挙法等の一部を改正する法律の施行により、選挙権年齢が18歳以上へ引き下げられることに伴い、システムの改修を行うものです。

17ページをお願いいたします。

(款)民生費、(目)保育所費の中の児童保育環境充実事業80万円は、寄附行為に基づき、保育環境の充実を図るものです。

20ページをお願いいたします。

(款)農林水産業費、(目)農業総務費の中の台風被害対策資金助成事業8万6000円は、台風15号に係る熊本県の融資制度を活用し、経営再建を図る被災農家に対し、金利等の負担軽減を行うものです。

次の(目)農業振興費の中の農業担い手支援総合対策事業2186万2000円は、農地の集積・集約化を進める農地中間管理機構への農地貸付者の増加に伴い、経営転換協力金等を増額するものです。

次の環境保全型農業直接支払事業286万6000円は、環境保全のため、化学肥料等の抑制に取り組む農家の増加に伴い、環境保全型農業直接支払交付金を増額するものです。

次の21ページの経営体育成支援事業(台風被害対策)1101万円及び台風被害園芸・果樹生産緊急支援事業1096万5000円並びに(目)畜産業費の台風被害畜産経営緊急支援事業2019万6000円は、台風15号に係る国・県の支援事業を活用し、農業・畜産関係の施設や農産物の被害を受けた農家の経営再建を支援するものです。

24ページをお願いいたします。

(款)教育費、(目)小学校の学校管理費の中の学校運営費141万3000円及び25ページ中段の(目)中学校の学校管理費の中の学校運営費202万円は、いずれも市内小中学校各部の全国大会等への競技出場を支援するものです。

戻りまして、24ページ下段の(目)小学校の学校建設費の中の学校規模適正化事業(米野岳中学校校区統合小学校)345万6000円は、平成29年4月の開校を目指す

当該校において、スクールバス駐車場及び通学路の整備に係る地質調査・測量設計を行うものです。次の学校規模適正化事業（鹿本地区統合小学校）388万円は、平成30年4月の開校を目指した施設整備に向け、測量設計を行うものです。

25ページの（目）中学校の教育振興費の補正額2782万9000円は、平成28年度からの教科書改訂に伴うものです。

次の（目）幼稚園費の補正額20万円は、寄附行為に基づき、幼児教育環境の充実を図るものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

川崎福祉部次長。

[福祉部次長 川崎 美明君 登壇]

○福祉部次長（川崎 美明君）

議案第105号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）について、ご説明申し上げます。

1ページをお願いいたします。

第1条、歳入歳出予算の総額にそれぞれ146万7000円を追加し、総額を89億8540万9000円とするものです。

補正予算の内容につきまして、補正予算事項別明細書の歳出によりご説明いたします。

6ページをお願いいたします。

（款）総務費、（目）一般管理費の補正額146万7000円は、職員給について、会計間の人事異動に係る調整を行うものです。

なお、7ページ以降に補正予算給与費明細書を掲載しております。

続きまして、議案第106号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について、ご説明申し上げます。

1ページをお願いいたします。

第1条、歳入歳出予算の総額にそれぞれ785万7000円を追加し、総額を6億9966万3000円とするものです。

補正予算の内容につきまして、補正予算事項別明細書の歳出によりご説明いたします。

6ページをお願いいたします。

（款）保健事業費、（目）健康診査費の補正額785万7000円は、高齢者健診の受診者増加に伴い、健診委託料を補正するものです。財源は、後期高齢者医療広域連合からの受託事業収入です。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

中原建設部次長。

〔建設部次長 中原 忍君 登壇〕

○建設部次長（中原 忍君）

議案第107号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）について、ご説明申し上げます。

今回の補正は、人事異動に伴う会計間異動等に係る調整を行うものです。

1ページをお願いします。

第1条、歳入歳出予算の総額から403万6000円を減額し、歳入歳出予算の総額を9億4873万1000円とするものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

川崎福祉部次長。

〔福祉部次長 川崎 美明君 登壇〕

○福祉部次長（川崎 美明君）

議案第108号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）について、ご説明申し上げます。

1ページをお願いいたします。

第1条、歳入歳出予算の総額にそれぞれ545万5000円を追加し、総額を63億2153万6000円とするものです。

補正予算の内容につきまして、補正予算事項別明細書の歳出によりご説明いたします。

7ページをお願いいたします。

（款）総務費、（目）一般管理費の補正額476万2000円及び（款）地域支援事業費、（目）包括的支援事業費の補正額69万3000円は、いずれも職員給について、会計間の人事異動に係る調整を行うものです。

なお、8ページ以降に補正予算給与費明細書を掲載しております。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

阿蘇品水道局長。

〔水道局長 阿蘇品 元晴君 登壇〕

○水道局長（阿蘇品 元晴君）

議案第109号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）につき

ましても同じく、人事異動等に伴う会計間異動に係る調整を行うものでございます。

1 ページをお願いいたします。

第1条、歳入歳出予算の総額に157万7000円追加し、総額を2億9419万円とするものです。

続きまして、議案第110号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第1号）につきましても同様でございます。

1 ページをお願いいたします。

第2条、第1款、水道事業費の既決予定額4億662万1000円を153万8000円減額し、4億508万3000円とするものです。

また、これに伴いまして、第3条、議会の議決を経なければ流用できない経費を153万8000円減額し、5645万9000円とするものです。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

中原建設部次長。

〔建設部次長 中原 忍君 登壇〕

○建設部次長（中原 忍君）

議案第111号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第1号）につきましても同じく、人事異動に伴う会計間異動に係る調整を行うものです。

1 ページをお願いします。

第2条、第1款、下水道事業費用に99万3000円を追加し、11億7293万7000円とするものです。

これに伴いまして、第3条、議会の議決を経なければ流用することのできない経費に79万3000円を追加し、4307万円とするものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

議案第112号 山鹿市基本構想について、ご説明申し上げます。

本案は、第2次山鹿市総合計画の基本構想を定めるため、議会の議決すべき事件を定める条例第2条第1号の規定により、議会の議決を求めるものです。

2 ページをお願いいたします。

第1章は、目的であります。

構想の期間を平成28年度から向こう10年間とし、市政運営の基本方針を明らかに

することを目的とします。

第2章では、将来都市像を定めております。

合併から10年間で築き上げたまちづくりを基本として、自立したまちづくりへとさらに飛躍することを目指して、将来都市像を「人輝き飛躍する都市やまが」と定めるものです。

その中の「人輝く都市」とは、市民一人一人を初め、企業、団体及び行政が、相互に連携協力しながら、個性と活力に満ちたまちづくりに取り組む姿をあらわしています。また、「飛躍する都市」とは、豊かな自然、歴史文化、魅力ある産業を礎とし、未来へ向けて挑戦する姿をあらわしています。

第3章では、「人を創る」「経済を創る」「住み続けたいまちを創る」というまちづくりの基本姿勢を定めております。

次に、第4章では、市民の幸せの実現に向けて、5つの基本目標を定めております。

基本目標の1点目は、「やまがを元気にする人材の育成」であります。

市民と行政が協働して、地域を支えていく人材・将来を担っていく人材の育成を目指します。

3ページをお願いいたします。

2点目は、「資源を活用した産業の振興と雇用の創出」であります。

個性ある産業群が多様な雇用機会を提供し、地域を支える原動力となるよう、既存の枠組みにとらわれない産業の振興を目指します。

3点目は、「住みやすく子育てしやすい環境の充実」であります。

子供を生み育て、暮らし続けたいと思えるまちづくりのあり方、未来の人材を育む教育環境のあり方を市民とともに考え実践していく機会を充実し、住みやすく子育てしやすい、質の高い環境づくりを目指します。

4点目は、「健やかで安心して暮らせる地域の実現」であります。

市民の健康づくり活動への支援を行い、健康寿命の延伸を推進するとともに、市民や各種団体との連携を図り、安心して暮らせる地域の実現を目指します。

5点目は、「戦略的な行政経営と質の高い行政サービスの提供」であります。

戦略的な施策の実施、簡素で効率的な行財政システムの構築及びPDCAサイクルによる成果重視の行政経営を行います。

第5章では、構想の実現へ向けて、市民、企業、団体及び行政が総力を結集して行政運営に取り組むこととしております。

なお、ただいま申し上げました将来都市像、まちづくりの基本姿勢及び基本目標と、その目標達成に向けた施策を体系的に示した資料を添付しておりますので、ご

参照ください。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

議案第113号 工事請負契約の締結について、ご説明を申し上げます。

本案は、米野岳中学校校区統合小学校増築改修工事の請負契約について、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第2条の規定により、議会の議決を経る必要があります、提案するものでございます。

まず、契約の目的は、米野岳中学校校区統合小学校増築改修工事です。

なお、今回は、当該建築工事に附帯する電気設備工事及び機械設備工事もあわせて施工をいたします。

次に、契約方法は、指名競争入札です。任意の2社が共同連携して工事を請け負うこととする建設工事共同企業体を指名条件としております。

また、業者の選定につきましては、市内建築一式工事のAランク格付業者のうち特定建設業許可業者で、現在菊鹿小学校建築工事施工業者を除く8社を第1グループ、特定建設業許可業者以外の建築一式工事の格付上位8社を第2グループとして選定をしております。

なお、共同企業体の結成につきましては、第1グループの1社を代表構成員とし、第2グループの1社を構成員とする任意2社をもって、8つの企業体を結成していただき、山鹿市工事入札者指名審査会への審査を経て、去る11月4日に入札を行い、11月13日に落札者と仮契約を締結しております。

契約の金額は、5億3049万6000円です。

契約の相手方は、稲葉・富田建設工事共同企業体、代表者 山鹿市鹿北町芋生4105番地の1、有限会社稲葉工務店、代表取締役 稲葉 博文氏です。

次のページをごらんください。

工事場所は、山鹿市南島地内です。

工事概要は、最初に施工する増築工事に係る部分でございますが、構造につきましては鉄筋コンクリート造2階建て、建築面積は593.87平方メートル、床面積は998.47平方メートルです。用途は、普通教室、理科室、家庭科室、図工室等です。

次に、改修工事に係る部分でございますが、構造は鉄筋コンクリート造3階建て、床面積は2684.72平方メートルです。用途は、普通教室、特別支援教室、図書室、音楽室、職員室、屋内運動場、給食室等です。工期は、本契約の成立日の翌日から平

成29年5月12日までです。

次に、補足説明といたしまして、ただいまご説明申し上げました、議案第113号の関連工事でございます米野岳中学校校区統合小学校電気設備増築工事及び米野岳中学校校区統合小学校機械設備増築工事につきまして、ご報告を申し上げます。

まず、米野岳中学校校区統合小学校電気設備増築工事につきまして、契約の方法は、指名競争入札です。

業者の選定につきましては、市内の電気設備入札参加資格者全11社のうち、管工事と重複している業者及び現在菊鹿小学校電気設備工事施工業者を除く8社を選定し、山鹿市工事入札者指名審査会での審査を経て、去る11月4日に入札を行いました。その結果、電気設備増築工事は、有限会社矢野電設が3141万1800円で落札いたしました。工期は、本契約の成立日の翌日から平成28年7月29日までです。

次に、米野岳中学校校区統合小学校機械設備増築工事につきまして、契約の方法は指名競争入札です。業者選定につきましては、市内の管工事入札参加資格者全14社のうち、現在菊鹿小学校機械設備工事施工業者を除く12社を選定し、山鹿市工事入札者指名審査会での審査を経て、去る11月4日に入札を行いました。その結果、有限会社有働設備が4028万4000円で落札いたしました。工期は、本契約の成立日の翌日から平成28年7月29日までです。

なお、電気設備増築工事と機械設備増築工事の契約の締結につきましては、今回提案の増築改修工事とあわせて行うものでございます。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

幸村総務部長。

[総務部長 幸村 英星君 登壇]

○総務部長（幸村 英星君）

議案第114号 財産の譲渡について、ご説明申し上げます。

本案は、市有財産の有効活用を図るために譲渡するに当たり、地方自治法第96条第1項第6号の規定により、議会の議決を求めるものです。

譲渡する財産の種類は土地、所在及び地番は山鹿市鹿央町北谷字高壱323番1、地目は雑種地、地籍は1547平方メートルであります。

譲渡価格は、201万1000円。

契約の相手方は、山鹿市鹿央町広435番地、肥後山内郵便局長 野路 美紀氏であります。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

栃原経済部長。

[経済部長 栃原 栄一君 登壇]

○経済部長（栃原 栄一君）

議案第115号 財産の譲渡について、ご説明申し上げます。

本案は、花卉栽培施設の用に供しているガラスハウスを地元花卉園芸組合に譲渡し、引き続き農業用施設として有効活用を図るものです。

譲渡する財産の所在は、山鹿市石字松原1189番地ほか3筆。

構造は、鉄骨造平家建てのガラスハウス、機械室、倉庫、ボイラー室、鉄骨造2階建ての管理棟の計7棟です。

譲渡価格は、ゼロ円。

契約の相手方は、山鹿市石1354番地、花卉園芸組合、組合長 中島 繼夫氏であります。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

木村教育部長。

[教育部長 木村 厚男君 登壇]

○教育部長（木村 厚男君）

議案第116号及び議案第117号の財産の譲渡について、ご説明申し上げます。

両案は、市有財産の効率的運用及び旧広見小学校敷地等の有効活用を図るため、財産の譲渡に当たり、地方自治法第96条第1項第6号の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

まず、議案第116号でございます。

本案は、山鹿市鹿北町の旧広見小学校敷地の土地・建物等を民間譲渡することで市有財産の有効活用と地域経済の活性化を図るため、提案するものでございます。

譲渡する財産は、土地・建物及び工作物でございます。

土地につきましては、所在及び地番は山鹿市鹿北町芋生字西細永3887番1、3962番1、3962番4、4041番1、4045番1及び4045番2の6筆で、地目は全て学校用地、地積は合わせて1万3732平方メートルです。

建物につきましては、所在が山鹿市鹿北町芋生字西細永3887番地1、構造・床面積は、鉄骨造平家建てが814.99平方メートルで体育館です。また、鉄筋コンクリート造平家建てが100平方メートルで給食棟です。

同じく、所在が山鹿市鹿北町芋生字西細永4041番地1、構造・床面積は鉄筋コンクリート造2階建てが1790.55平方メートルで校舎棟です。また、鉄骨造平家建てが16平方メートルで屋外トイレ及び木造平家建てが33平方メートルで屋外倉庫です。

また、工作物といたしまして、譲渡する財産である土地に定着するプールその他の工作物一式です。

譲渡価格はゼロ円。

契約の相手方は、山鹿市小坂1164番地23、株式会社あつまる山鹿シルク、代表取締役 島田 俊郎氏です。

次に、議案第117号でございます。

本案は、山鹿市鹿北町の旧広見小学校敷地の土地の一部を地元自治会に譲渡し、記念碑等による地域での有効活用を図るため、提案するものでございます。

譲渡する財産の種類は土地、所在及び地番は山鹿市鹿北町芋生字西細永3887番5、地目は学校用地、地積は51平方メートル。

譲渡価格につきましては、ゼロ円です。

契約の相手方は、山鹿市鹿北町芋生字3927番地1、細永区自治会会長、宇田 昌生氏です。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

戸次福祉部長。

〔福祉部長 戸次 由夫君 登壇〕

○福祉部長（戸次 由夫君）

議案第118号 公の施設の指定管理者の指定について、ご説明申し上げます。

公の施設の名称は、山鹿市山鹿老人福祉センター、山鹿市鹿北老人福祉センター、山鹿市鹿本高齢者コミュニティセンター親和荘、山鹿市らんらんハウス、山鹿市鹿央地域福祉センターの5施設であります。指定管理者は、山鹿市中578番地、社会福祉法人山鹿市社会福祉協議会であります。指定の期間は、平成28年4月1日から平成31年3月31日までとするものでございます。

続きまして、議案第119号 公の施設の指定管理者の指定について、ご説明申し上げます。

公の施設の名称は、山鹿市菊鹿健康福祉センター「ひまわり館」であります。指定管理者は、山鹿市中578番地、社会福祉法人山鹿市社会福祉協議会。指定の期間は、平成28年4月1日から平成31年3月31日までとするものでございます。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

議案第120号 公の施設の指定管理者の指定について、ご説明申し上げます。

公の施設の名称は、山鹿灯籠民芸館です。指定管理者は、山鹿市山鹿1番地1、一般財団法人山鹿市地域振興公社。指定の期間は、平成28年4月1日から平成31年3月31日までとするものです。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

議案第121号 公の施設の指定管理者の指定について、ご説明を申し上げます。

公の施設の名称は、山鹿市民交流センターでございます。指定管理者は、山鹿市山鹿1番地1、一般財団法人山鹿市地域振興公社。指定の期間は、平成28年4月1日から平成31年3月31日までの3カ年とするものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

池田副市長。

〔副市長 池田 永実君 登壇〕

○副市長（池田 永実君）

議案第122号から議案第125号までの人権擁護委員の推薦について、ご説明申し上げます。

これらの案件は、人権擁護委員のうち4名の委員が、平成28年3月31日をもちまして任期満了となりますので、次期の人権擁護委員の候補者に推薦するため、人権擁護委員法第6条第3項の規定に基づき、議会の意見を求めるものでございます。

議案第122号では、現委員、川上 學氏の任期満了に伴い、再度、同氏を推薦しようとするものでございます。

議案第123号では、現委員、衛藤 泰夫氏の任期満了に伴い、新たに福島 誠四郎氏を推薦しようとするものでございます。

議案第124号では、現委員、石貫 若継氏の任期満了に伴い、新たに西牟田 幸子氏を推薦しようとするものでございます。

議案第125号では、現委員、江藤 國光氏の任期満了に伴い、新たに荒木 隆氏を推薦しようとするものでございます。

なお、それぞれ次のページに略歴を記載しております。ご参照の上、ご同意を賜りますようお願い申し上げ、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

西田経済部首席審議員。

[経済部首席審議員 西田 博之君 登壇]

○経済部首席審議員（西田 博之君）

報告第15号について、ご説明申し上げます。

市が2分の1以上出資している法人、株式会社菊鹿フラワーバンクの経営状況について、地方自治法第243条の3第2項の規定により報告するものでございます。

4ページをお願いいたします。

平成26年度の事業報告書でございますが、厳しい経営環境の中、徹底的に経営改善を実施された結果、売上高は前年より1.1%増の3292万9000円となり、営業活動では14万8000円の営業利益、営業外収益を含めた当期純利益は71万4000円となっております。

5ページから8ページにかけては、貸借対照表及び損益計算書、株主資本等変動計算書を掲載しておりますので、ご参照願います。

9ページから11ページまでは、平成27年度の事業計画に関する書類であります。

今期の経営方針としましては、主力取引先との関係強化、社内活性化、大型作品展の定期開催、財務体質の強化等、根本的な部分で積極的に経営改善に取り組み、販売額増に結びつけるとされております。

市といたしましては、今後、法人の自立経営の立て直しを側面より支援しながら経営健全化へ向けた努力を強く求めていると考えています。

以上で、報告を終わります。

○

散 会

○議長（藤原 弘君）

以上で、提案理由の説明を終わります。

今期定例会において受理した請願等の取り扱いにつきましては、お手元に配付の請願文書表のとおりいたしましたので、ご報告いたします。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

午前10時59分 散会

~~~~~

1 2 月 2 日 (水曜日)

# 平成27年（第5回）山鹿市議会12月定例会会議録

## 議 事 日 程（第2号）

平成27年12月2日（水曜日）午前10時開議

### 第1 質疑・一般質問

○

#### 発言通告

#### 1. 服部 香代

##### 一般質問

（1）第2次山鹿市総合計画基本構想について

（2）山鹿市地域防災計画について

①自主防災組織について

②情報伝達等について

（3）山鹿市民交流センターの指定管理について

#### 2. 富田 弘海

##### 一般質問

（1）山鹿市社会体育施設と小中学校体育施設について

（2）山鹿市バイオマスセンターについて

#### 3. 稲葉 昇

##### 一般質問

（1）イノシシによる農作物の被害状況、今後の対策について

（2）消防団の組織と今後の課題について

#### 4. 北原 昭三

##### 一般質問

（1）生活困窮者対策について

（2）パーキング・パーミットの導入について

（3）災害廃棄物処理計画策定の推進について

（4）健康マイレージの取り組みについて

○

### 本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○

### 出席議員（20名）

|      |    |   |    |   |   |
|------|----|---|----|---|---|
| 1 番  | 服  | 部 | 香  | 代 | 君 |
| 2 番  | 富  | 田 | 弘  | 海 | 君 |
| 3 番  | 永  | 田 |    | 健 | 君 |
| 4 番  | 稻  | 葉 |    | 昇 | 君 |
| 5 番  | 富  | 丸 | 洋一 | 郎 | 君 |
| 6 番  | 藤  | 本 | 峰  | 秀 | 君 |
| 7 番  | 北  | 原 | 昭  | 三 | 君 |
| 8 番  | 芹  | 川 | 正  | 美 | 君 |
| 9 番  | 藤  | 原 |    | 豊 | 君 |
| 10 番 | 平  | 井 | 邦  | 廣 | 君 |
| 11 番 | 吉  | 本 | 政  | 幸 | 君 |
| 12 番 | 池  | 田 | 誠  | 一 | 君 |
| 13 番 | 堀  |   | 茂  | 幸 | 君 |
| 14 番 | 永  | 田 | 紘  | 二 | 君 |
| 15 番 | 横  | 手 | 啓  | 介 | 君 |
| 16 番 | 藤  | 原 |    | 弘 | 君 |
| 17 番 | 太田 | 黒 | 鐵  | 郎 | 君 |
| 18 番 | 丸  | 山 | 寛  | 治 | 君 |
| 19 番 | 寺  | 崎 | 勇  | 児 | 君 |
| 20 番 | 丸  | 山 | 康  | 昭 | 君 |



説明のため出席した者

|                         |       |    |   |    |   |   |
|-------------------------|-------|----|---|----|---|---|
| 市                       | 長     | 中  | 嶋 | 憲  | 正 | 君 |
| 副市                      | 長     | 池  | 田 | 永  | 実 | 君 |
| 教                       | 育     | 堀  | 田 | 浩一 | 郎 | 君 |
| 総務部                     | 長     | 幸  | 村 | 英  | 星 | 君 |
| 消防本部                    | 消防長   | 内  | 野 | 輝  | 雄 | 君 |
| 市民部                     | 長     | 阿蘇 | 品 | 貴  | 司 | 君 |
| 福祉部                     | 長     | 戸  | 次 | 由  | 夫 | 君 |
| 経済部                     | 長     | 栃  | 原 | 栄  | 一 | 君 |
| 経済部                     | 首席審議員 | 西  | 田 | 博  | 之 | 君 |
| 建設部                     | 長     | 原  |   | 弘  | 文 | 君 |
| 教育部                     | 長     | 木  | 村 | 厚  | 男 | 君 |
| 山鹿市民医療センター<br>事務部長兼医事課長 |       | 飯  | 田 | 啓  | 詩 | 君 |



|                        |           |
|------------------------|-----------|
| 市 民 部 次 長              | 阿 部 一 行 君 |
| 經 濟 部 次 長              | 早 田 順 二 君 |
| 建 設 部 次 長              | 中 原 忍 君   |
| 教 育 部 次 長              | 大 森 健 司 君 |
| 秘書企画課長兼企画係長            | 野 満 信 男 君 |
| 防 災 対 策 課 長            | 白 田 俊 輔 君 |
| 環境課長兼廃棄物<br>処理施設建設推進室長 | 古 江 光 弘 君 |
| 福 祉 課 長                | 野 田 勝 年 君 |
| 健 康 増 進 課 長            | 田 中 修 政 君 |
| 農 業 振 興 課 長            | 才 田 豊 昭 君 |
| 社会教育課長                 | 瀬 口 慎 哉 君 |

○

事務局職員出席者

|             |           |
|-------------|-----------|
| 議 会 事 務 局 長 | 野 田 修 誠 君 |
| 局長補佐兼議会総務係長 | 森 田 英 美 君 |
| 議 事 係 長     | 小 山 天 君   |
| 書 記         | 高 木 善 彦 君 |

○

午前10時00分 開議

○議長（藤原 弘君）

これより本日の会議を開きます。

日程第 1 質疑・一般質問

○議長（藤原 弘君）

日程第 1、質疑・一般質問を行います。

発言の通告がっておりますので、順次発言を許します。服部 香代君。

〔1番 服部 香代君 登壇〕

○1番 (服部 香代君)

おはようございます。

議席番号1番、服部 香代です。

発言通告に従いまして、一般質問３点質問いたします。

まず、前回の９月定例会の私の一般質問の中で、山鹿市の未来の方向性を決める大変重要な第２次総合計画が策定中ということで、盛り込まれる内容は何十年先の山鹿を左右するものであるので、市民の活力を引き出し、希望の持てる、また地域力が発揮できるような計画をと要望しておりましたが、いよいよ今定例会において第２次山鹿市総合計画基本構想が議案として上程されました。平成２７年度を目標年度とした第１次山鹿市総合計画が平成１８年に策定され、今年度はその最終年度となりますので、来年度からの１０年を見通した第２次総合計画となります。

この総合計画は、私が言うまでもありませんが、山鹿市の将来像やまちづくりの基本的な方向性と重点的に取り組む政策を示すものであります。このことについて、まず大きく三つの質問をいたします。

まず、一つ、第1次山鹿市総合計画の検証について、二つ目、第2次山鹿市総合計画基本構想の内容について、そして三つ目に、第2次山鹿市総合計画の策定はどのようにして行われたのかという3点です。

これまでの10年間、第1次総合計画にのっとり、基本計画、実施計画とさまざまな計画を策定して実行されてきたのですから、これには綿密な検証が必要になると思います。その中には、数値であらわせるものもそうでないものもあると思われますが、詳細で正確な分析が次へのステップへつながるものと思いますので、まず1点目に、その検証がどのようにされて第2次総合計画へと反映されているかについてお尋ねいたします。

次に、第2次総合計画基本構想についての内容を3点お尋ねいたします。

まず、1点目、第2章では、将来都市像として、「人輝き飛躍する都市やまが」とされておりまして、「人輝く都市」と「飛躍する都市」の二つに定められておられます。その「飛躍する都市」とは、「豊かな自然、歴史文化、魅力ある産業を礎とし」とありますが、その第4章の基本目標のどこに豊かな自然や歴史文化といったことが反映されているのでしょうか。これは山鹿市の大きな特徴でもあり、魅力でもあるところだと思うんですが、私にはどう読み込まなければならないのかわかりませんでしたので、ここを教えていただきたいと思います。

内容の2点目、第4章の基本計画のVの項目のところに、「戦略的な行政経営と質の高い行政サービスの提供」とされており、その中にはこう書いてあります。「戦略的な施策の実施、簡素で効率的な行財政システムの構築及びPDCAサイクルによる成果重視の行政経営を行います」とあります。

アベノミクス成長戦略という言葉が使われるようになってからは、特に地方政治の中でも最近よく「戦略」という単語を聞くようになってきました。ここでいう戦略的ということはどういう意味なのでしょう。これをお答えいただきたいと思います。

では、内容についての3点目です。

第5章の「構想の実現へ向けて」のところには、「まちづくりの基本目標を実現していくため、市民、企業、団体及び行政が総力を結集して行政運営に取り組みます」となっておりますが、この表現では、市民・企業・団体も行政運営に取り組まなければならないような表現になっています。もちろん市民もシチズンシップを発揮して取り組んでいくというようなことかもしれませんが、それならば総力を結集してまちづくりに取り組み、行政はその力を十分に生かし行政運営に取り組むというような、そういったストレートな表現ではどうだろうかと思いますが、その点についてお答えいただきたいと思います。

では、大きな三つ目、3点目の質問です。

この第2次総合計画基本構想が策定されるまでは、それ相応の期間と準備がなされたことと思いますが、その経緯をお尋ねいたします。

以上、よろしくお願いします。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

服部議員の一般質問、第2次山鹿市総合計画基本構想についてお答えをいたします。

ご質問の1点目、第1次山鹿市総合計画の検証についてでございますが、当計画は本市が合併して最初の総合計画であり、これに基づき新市の一体化、各地域の均衡ある発展を目指し、計画の推進に努めてきたわけでございますが、広く検証を行うため、計画期間満了直前の平成26年に市民意識調査を実施いたしました。

また、平成26年度は合併10年目の節目の年でもありましたことから、合併協定項目の進捗状況の確認を行うとともに、総合計画についても検証を行ったところでございます。

これらを総合しますと、特に農業・商工業の振興、少子高齢化社会を見据えた福祉の充実などが、本市の優先課題として浮き彫りになってまいりました。このため、第2次山鹿市総合計画におきましては、これらの検証結果を踏まえ、さらには山鹿市総合戦略との整合性も図りながら、基本構想の取りまとめを行ったところでございます。

ご質問の2点目、基本構想の内容に係る将来都市像の基本目標への反映についてでございますが、まず、両者の関係についてご説明をいたします。

将来都市像「飛躍する都市」の説明として掲げております「豊かな自然、歴史文化、魅力ある産業」という表現につきましては、山鹿のさまざまなすぐれた地域資源の活用を象徴するものであり、それは基本目標の達成に向けた取り組みの中の全てに関係しているものと考えております。

したがって、具体的に基本目標のⅠからⅤまでのうち、個々のどの部分に対応するものと位置づけられるものではありませんが、その理念は全てに反映されているもののご理解願いたいと存じます。

次に、戦略的の意味についてですが、これからの行政運営に当たっては、マーケティング戦略に基づく行政運営や、いわゆるファシリティー・マネジメントによる行政財産の管理など、経営的視点に立った行政運営を推進していくことが不可欠でございます。単に効率的というだけではなく、また、前例や慣習に捉われることなく、積極的な攻めの姿勢で挑んでいくことを戦略的と表現したものでございます。

続きまして、基本構想第5章の内容に係る表現についてでございますが、今後、構想の実現へ向けまして、市民、企業、団体の力を生かして取り組むことはもちろんのことでございますが、さらに、各団体と協働し、一体となって行政課題に取り組むことが重要であると考え、あえてこのような表現を使ったわけでございます。

ご指摘の趣旨は十分ご理解いたしますが、ここは山鹿市の決意と覚悟の意思表示としてご理解いただければと存じます。

3点目のご質問、第2次山鹿市総合計画基本構想の策定の経緯についてでございますが、まず、地方自治体の基本構想策定については、平成23年の地方自治法の改

正により該当規定が削除され、策定の義務はなくなっております。しかしながら、本市といたしましては、基本構想は市政運営の基本方針を示すものであり、対外的にも本市のまちづくり方針を示すものであるとの考えから、議会の議決すべき事件を定める条例に規定し、引き続きこれを策定し、これに沿った市政運営を行うべきとして、策定に至った次第でございます。

策定に当たりましては、庁内に課長級職員で組織する専門部会において素案を作成し、学識経験者や市民代表者などからなる山鹿市総合計画審議会の答申を踏まえまして、副市長をトップとする策定委員会の決定を経て原案を策定しました。また、市民から広く意見を募るためパブリックコメントを実施し、市長の決裁を経て、今回議案として上程したものでございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

[1 番 服部 香代君 登壇]

○1 番（服部 香代君）

戦略が明確になっているほど効果的で効率のよい経営が可能になると思っています。総合的視野を持って、そして将来変化にも対応し得る長期的視野に立つこと、そしてそれが経営的視点であるということ、そういうことを基本に置いて行政運営をしていくというお答えをいただいたと思います。これは山鹿市にとっては大変明るい材料ではないかと思っております。

ありがとうございました。

では、最後に、市長に大変重要な質問をさせていただきたいと思います。

このようにいよいよ山鹿市も次のステージへ移行しようとしています。これから山鹿市が目指すところ、つまりどこを向いてどういう方向性で行くのか。あれもこれもではなくて、これからはあれかこれかという選択も大変重要な時期になってくるんじゃないかと思っております。どこにウエートを置いて、何を重点として市政運営をされていくのか、5万5000人の山鹿市民の暮らしがかかっています。総合計画に盛り込んであるとは思いますが、そのビジョンをわかりやすく示していただきたいと思います。

市長、よろしくお願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

中嶋市長。

[市長 中嶋 憲正君 登壇]

○市長（中嶋 憲正君）

ただいまの服部議員のご質問、これからの山鹿市の方向性や市政運営の重点についてお答えいたします。

これまで第1次総合計画では、新市の速やかな一体化と地域のさらなる発展、住民福祉の向上を目指し、合併後のまちづくりを進めてまいりましたが、今回の基本構想で示します将来都市像は、今後さらに自立したまちづくりへと飛躍することを目指して、「人輝き飛躍する都市 やまが」と定めたところであります。

これからの山鹿市が活力ある、魅力的なまちとして発展していくためには、将来都市像「人輝き飛躍する都市 やまが」が示すとおり、「人」、いわゆる人づくりが重要であると考えております。

このことは、これまで山鹿市が掲げてきた市政運営の3本の柱「人をつくる」「経済をつくる」「人口減少に歯どめをかける」とも共通するものであります。

今回の基本構想には五つの基本目標を定めておりますが、中でも目標Ⅰ「やまがを元気にする人材の育成」が最も重要であると私は考えております。

今後、人口減少や高齢化が進行し、産業や農村集落の存続が危ぶまれる状況がますます深刻さを増していく中、ふるさと山鹿に自信と誇りを持ち、いかなる困難にも挑戦する人材を育成していくことが最大の突破口であるとかたく信じております。

このような人材が、行政はもとより農村・企業・団体等それぞれの場で最大限の力を発揮することにより、山鹿の未来が開けていくものと期待いたしております。これこそが今回の基本構想の根幹をなすものであり、山鹿市が目指していく方向であると考えております。

以上、答弁いたします。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

〔1番 服部 香代君 登壇〕

○1番（服部 香代君）

ありがとうございました。

これから10年間のビジョン、つまり将来の見通し、到達点についてお尋ねしたわけですが、「人輝き飛躍する都市 やまが」とお答えいただきました。ビジョンというよりもスローガンのような言葉のイメージもありますが、そのビジョンのイメージは理解できないことはありませんが、それをもっと具体的にわかりやすく市民の皆さんにもお知らせしていただきたいと思っています。

この基本構想から総合戦略を初めとするさまざまな事業計画、そういった計画がつくられていくと思いますので、そういった折にも、また市長のお考えをお尋ねし

ていきたいと思います。

それでは、山鹿市地域防災計画についてお尋ねいたします。

この計画は、市の地域並びにその地域の住民の生命、身体及び財産を災害から保護することをその目的とし、災害予防、災害応急対策、災害復旧に関する事項、その他必要な事項について、市、防災関係機関、市民、事業所等が果たすべき責務や役割を定めています。

その中の第2章第19節は、自主防災組織整備計画についての項目となっています。

まず、自主防災組織に関連することを3点質問いたします。

総務省消防庁が平成27年4月に発表した自主防災組織の組織率では山鹿市は63.5%で、県内の45自治体の中では41番目という低い数字になっております。100%の自治体が19ありまして、人口の多い八代市でも78.3%、熊本市でも72.6%という数字です。地震や風水害などの大規模な災害が発生した場合、通信や交通が途絶えることによって防災関係機関の活動が著しく制限され、十分に活動できないことが予想されます。

このような場合に、地域住民が協力し合って組織的に防災活動を行うことは、生命も財産も守る大きな力となります。また、その力を発揮できるよう体制を整えておくことや日ごろからの啓発や訓練を積み重ねておくことが減災になり、また被害軽減のために大変有効だと思われれます。

平成24年に自主防災組織を設立された鹿校通では、1丁目から4丁目までそれぞれに立ち上げられており、それを一つに束ねられて活動されることもあります。立ち上げに際しては、その必要性は理解できていても、「うちは大丈夫だろう」とか、「いざとなったら誰かが助けてくれるだろう」、また、「そんな組織は面倒だ」と、そういったいろんな考えの方たちをまとめられて、また、そのプロセスは、区長さんなど地域のリーダーさんたちが大変ご苦労されてつくられております。

そこで、1点目の質問です。

組織づくりには、地域の皆さんへの意識づけや同意、そしてさまざまな手続、また規約などの整備も必要になってまいります。そういったアドバイスは行われているのでしょうか。

次に、立ち上げ後のことですが、地域で防災訓練を行うことにより、1次避難所、また2次避難所の確認、そしてここは高齢者の単身世帯であるとか、このお宅には赤ちゃんがいるとか、そういった避難する上で大事な情報も得ることができます。避難訓練だけではなくて、地域の運動会にバケツリレーを競技に入れたり、担架リレーを入れたり、そういった防災の要素を取り入れたりすることもできます。

また、これはつい先日開催されたのですが、防災に対する意識啓発を目的として、

防災講演会が実施されました。地域の方、地域外の方も含めて200人を超える参加がありました。スタッフ全員地域の方で、まさにこのこと自体が地域づくりとなっていました。

ただ、このように活発にうまくいっている例もありますが、この組織での活動を継続していくことは、一部のリーダーさん方へのご負担になったり、活動の予算がなかったりして、困難になっていくことも考えられます。

そこで、2点目の質問です。

立ち上げ後の活動に対する支援や指導はなされているのか、また、行動マニュアルの提供はあるのかについてお尋ねいたします。

そしてまた、立ち上げまではどうしても区長さん方のご協力が必要になりますが、活動自体を計画したり実行したりするような防災リーダーの役割も重要になってくると思います。計画にもありますが、防災リーダーの育成は行われているのか、以上、これを3点目のお尋ねといたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

山鹿市地域防災計画に係る自主防災組織についてのご質問にお答えをいたします。

まず、組織づくりのアドバイスは行っているのかというお尋ねでございますが、自主防災組織の必要性や活動についての周知を図るため、組織づくりの方法や組織活動の例、組織規約のひな形等を掲載した本市独自の自主防災組織設立の手引を作成し、嘱託員会議等の際に説明を行っているほか、行政区に出向いての説明会を実施するなど、組織化に向けたアドバイスや支援を行っているところでございます。今後とも引き続き、組織化に向けた支援の充実を図り、組織率の向上に努めてまいりたいと考えております。

次に、ご質問の2点目、組織立ち上げ後の活動に対する支援や指導は行われているのか、また、行動マニュアルの提供はあるのかという点につきましては、山鹿市自主防災組織育成事業補助金交付要綱を制定し、活動の充実や組織強化の支援を行っているところでございます。

補助の内容につきましては、組織設立の経費のほか、各組織で実施される防災訓練や研修会等の開催に係る経費や、災害発生に備え、組織の強化・充実を図るために必要となる防災資機材の整備に係る経費等の一部を補助するものでございます。

また、防災訓練の実施方法等についてお尋ねがあった場合には、ほかの組織の例を紹介したり、訓練計画の策定助言、訓練当日の支援等を実施いたしております。



次に、行動マニュアルにつきましては、自主防災組織設立の手引に平常時と災害時の活動例を掲載し、自主防災組織として取り組んでいただきたい活動等につきましてお示しをいたしているところでございます。

次に、ご質問の3点目、防災リーダーの育成は行っているのかという点につきましては、地域の防災を担っていただきます自主防災組織の強化・充実を図る上で、防災リーダーの育成は欠かすことができないものでございます。

熊本県など関係機関とも連携しまして、防災リーダー育成に向けた講演会等を開催するなど取り組みを強化してまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

[1番 服部 香代君 登壇]

○1番（服部 香代君）

お答えありがとうございます。

防災は、地域づくりそのものではないかなと考えております。

つい先日、鹿央町の北谷・仁王堂・霜野地区での徘徊者捜索声かけ模擬訓練に参加させていただきました。120名を超える参加があり、大きな成果があったものと思います。これもまた防災組織と同じく、区長さん方のご尽力で地域をまとめておられました。防災とはちょっとずれるように思われるかもしれませんが、防災訓練であれ、声かけ訓練であれ、参加する皆さんはどちらも同じ地域の方々です。リーダー育成をされる中で、そういった関連する複数の担当課の連携もぜひお願いしたいと思います。

では、災害時の広報手段と避難等についてお尋ねいたします。

本年11月から、無料の情報配信サービスであるやまがメイトの登録ができるようになりました。私も登録いたしました。が、小学校校区からさらに行政区まで指定して登録することができます。より地域に密着した情報が受け取れるのではないかと期待いたしております。

直近のお知らせは防災無線で放送されたもので、山鹿市内で発生した還付金詐欺の件でした。もう一つは、これは地域限定だと思いますが、三玉校区の徘徊者捜索声かけ模擬訓練のお知らせでした。防災無線で聞き逃した情報などを確実に受け取れることになっています。

鹿北・菊鹿・鹿央地区でのオフトークも近い将来サービスが終了する見込みということでありますので、それに対応できるツールとして開発されたものだと思いますが、では、この登録数はどのくらいを見込んでおられるのでしょうか。端末機の所

持率や利用登録の目標値があればお答えいただきたいと思います。

また、先ほど自分の本当に身近な近所の1次避難所、2次避難所と言いましたが、ほかにも指定避難所や福祉避難所などがあります。日ごろから訓練などを通して確認しておくことももちろん必要ではありますが、こういったところの避難標識は設置されているでしょうか。

山鹿市は観光地でもあるので、観光客も、もしも山鹿市で被災されたならば、それは市民と見なされ、同じように避難されます。それは外国からの観光客も同様です。外国語表記も整備する必要があると思いますが、設置の状況と、もし設置されていないならば、今後設置される用意があるのか、お尋ねいたします。

それから、地域防災計画の第3章第6節第1項の3の住民等からの問い合わせに対する対応についてですが、ここにはこういうふうに書いてあります。

「相談窓口を設置し、行方不明者の受け付け、罹災証明、税の減免、住宅応急修理の申請」といったことが記載されておりますが、しかし、これは後に述べられる災害復旧計画の第4章にあります被災者の生活の確保というところにも明記されております。防災計画に記さなければならないのは、災害直後の対応のことです。つまり被災者の安否について住民等から照会があったときは、被災者等の権利利益を不当に侵害することのないよう配慮しながら、可能な限り安否情報を回答するように努める、そういったことです。

そして、そのような場合に最も気をつけてほしいことの一つに、被災者にDV被害者が含まれている場合、その加害者に居どころが知られることのないように個人情報管理を徹底するように努めてもらいたいということです。ぜひ、この項目に入れておいてほしいと思いますが、いかがでしょうか。

以上、3点についてお尋ねいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

山鹿市地域防災計画についての2回目のご質問、情報伝達等についてお答えをいたします。

まず、やまがメイトにつきましては、山鹿市が無償で提供している情報配信サービスであり、11月のテスト運用期間を経まして、この12月から本格運用を開始したところでございます。

サービスの対象者は、スマートフォンやタブレット、あるいは一般の携帯電話やパソコンなどにより、インターネットを利用されている方々です。

ご質問の利用登録の目標値等につきましては、オフトークが世帯単位で把握できたのに対し、やまがメイトは個人所有の機器を対象としていること、また、利用者によってはこれらの機器を複数所有されているケースもあること、さらに、やまがメイトが市内居住者に限らず、市外の方も利用できるサービスであることから、利用者数を把握した目標設定は、非常に難しいのが実情でございます。

しかしながら、インターネットの利用者は、今後、確実にふえることが見込まれるため、さまざまな機会を捉えてやまがメイトを紹介し、認知度を高め、利用率の向上に努めてまいります。

次のご質問、本市における避難所の標識の設置状況等についてお答えをいたします。

本市におきましては、30カ所の指定避難所を指定しておりますが、現時点では、避難所の標識を設置していない状況でございます。

災害発生時における市民の安全な避難体制を確立するため、また、本市が観光地ということもあり、外国人を含む観光客や市外居住者の本市内滞在時における安全確保のためにも、必要なものであると考えます。

今後、各避難所の活用状況等を勘案しながら、外国語表記も含めた標識設置について検討を進めてまいります。

続きまして、山鹿市地域防災計画の中の住民等からの問い合わせに対する対応の記載内容についてお答えをいたします。

熊本県地域防災計画書には、被災者の安否情報についての問い合わせに対し、被災者等の権利利益を不当に侵害することのないよう配慮しつつ、災害直後の緊急性の高い応急措置に支障を及ぼさない範囲で、可能な限り安否情報を回答するよう努めるものとする、また、いわゆるDV被害者等が含まれている場合には、個人情報の管理を徹底するよう努めるものとするとされております。

災害発生時における被災者等の個人情報の保護という観点も非常に重要でございますので、県の地域防災計画を参考にしつつ、本市の地域防災計画においても内容を精査し、必要な説明を加えたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

[ 1 番 服部 香代君 登壇 ]

○1番（服部 香代君）

男女共同参画社会の実現の大きな阻害要因にDVが挙げられています。こういった視点も見落とすことなく、計画の中にぜひ盛り込んでいってください。

平成25年6月議会での一般質問で、女性の審議会等への登用率について提言していましたが、防災会議の女性委員の登用率は今でも変わっておらず、5.7%という数字です。なぜ、女性委員の登用が必要だと言っているのかをどうぞご理解いただきまして、善処されますようお願いいたします。

それでは、市民交流センターの指定管理についてお尋ねいたします。

本年3月定例議会におきまして、市民交流センターについては管理運営について質問させていただいております。再度になりますが、整理して申し上げますと、何点かありましたが、まず安全管理者などの人員配置の問題点です。

安全管理なども行う舞台監督、いわゆるマネジャー、それに照明や音響などの専門スタッフがいなかったことを指摘させていただきました。それから、設備の問題点として、ステージモニターや三点づりマイクが設置されていないこと、マイクのコネクターの位置の問題についても質問しましたが、それに対する直接の回答はなされないまま、将来的には指定管理者制度の導入を検討したいとのお答えしかされませんでした。特に安全管理には指定管理者制度を導入するしないの前に、即刻対応すべきものだと今でも思っています。

今議会において、山鹿市民交流センターに指定管理者導入をするという議案が提出されました。同時に、山鹿市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例も上程されております。これは特別用途地区の変更の見通しがついたものと思われますので、それに伴うものだと思いますが、指定管理者制度を導入することによって、先ほど申し上げました種々の問題点は解決するのでしょうか。

そういったことも踏まえて、指定管理者にはこういったところを要求して、そしてどこまで委託できるのか、きちんと条件は提示されることになるんでしょうが、市民交流センターという性質上、市民にはとても密接なかかわりのある施設です。市民の望む理想の市民交流センターとなりますよう、直接市民の皆さんから声を聞いて、運営に反映してほしいと思っておりますが、例えば、タウンミーティングやワークショップなどを開くといった、そういった機会をお考えでしょうか。また、指定管理をすることにより効果が上がるとするならば、どのようなことが期待できますでしょうか。そのことについてお尋ねいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

服部議員のご質問、山鹿市民交流センターの指定管理についてお答えをいたします。

初めに、導入の目的についてお答えをいたします。

まず、指定管理者制度とは、住民の福祉を増進するための公の施設について、民間事業者等が有するノウハウを活用することにより、住民サービスの質の向上を図り、施設の設置の目的をより効果的に達成するため、平成15年の地方自治法第244条の2の改正に伴い設置された制度でございます。

一方、山鹿市民交流センターは、本市の文化振興と市民相互交流を目的に、410席を有する文化ホール及び会議室、図書館を併設する施設として昨年11月1日に開館をいたしました。現在、開館後1年余りを経過したところでございますが、市民交流センターの利用状況は、和室を含む会議室の利用が月平均88件、ホールの利用が月平均4件のペースで推移をしているところでございます。

これまで、ホール音響や照明の管理については職員が対応しておりましたが、技術的に一定の限界があり、利用者のニーズによっては、外部業者への委託等が必要な状況がございました。また、来年度以降は、用途区域の変更による施設の利用制限が緩和されることを想定しており、ホールを利用したイベントの増加も見込まれるところでございます。

このようなことから、今後さらに高まることが予想される利用者ニーズへの対応や、よりきめ細やかなサービスの提供を図るため、平成28年度より指定管理者制度を導入することといたしました。

次に、議員ご質問の制度導入により期待できる効果についてお答えをいたします。

今回の指定管理者選定に当たっての要件として重要視した点は、一つにほかの文化施設との連携を図り、市の文化振興の向上に寄与すること、二つにホール施設の活用を図る専門的な技術を有すること、三つに民間のノウハウを生かし、利用者へのサービス向上を図ることの三つの観点でございます。

また、指定管理者に業務を委託するに当たり、管理の内容と履行方法について定める仕様書では、「職員の配置に関すること」「舞台業務に関すること」という項目内で詳細な内容を定めるなど、施設の維持管理はもとより、サービスの充実に重点を置いた内容といたしました。

これにより、ご指摘を受けておりました専門的スタッフを含めた人員配置、特に舞台部門の管理態勢が整備されることになり、利用者の満足度向上につながるものと期待をいたしております。また、舞台設備につきましても、利用者のニーズ等に応じて、可能なものから順次整備をしているところでございます。

一方、これからの市民交流センターの運営につきましては、単に指定管理者のみの責に帰するばかりでなく、市と指定管理者がそれぞれ果たすべき役割と責任を有するものと考えております。特に利用者の意見を市民交流センター運営に反映でき

る仕組みづくりに関しては、現場を担う指定管理者と歩調を合わせながら、利用者、指定管理者、市が自由に意見を交わすことのできる機会や場を創設し、利用促進と満足度向上を目指してまいりたいと思っております。

指定管理者制度の導入を、よりきめ細やかなサービスの向上につなげてまいりますので、より多くの市民の皆様にも市民交流センターをご利用いただきますようお願いを申し上げて、ご答弁とさせていただきます。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

[ 1 番 服部 香代君 登壇 ]

○ 1 番（服部 香代君）

ありがとうございました。

指定管理制度導入によりまして、市民交流センターがより一層、市民に親しまれ、そして愛される充実した施設となりますことを期待して、私の一般質問をこれで終わりたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

以上で、服部君の一般質問は終了いたしました。

ここで、暫時休憩いたします。

午前10時45分 休憩

○

午前11時00分 開議

○議長（藤原 弘君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次の通告順により、富田 弘海君の発言を許します。富田君。

[ 2 番 富田 弘海君 登壇 ]

○ 2 番（富田 弘海君）

こんにちは。

議席番号 2 番、富田 弘海でございます。

今回は一般質問を 2 件、一問一答方式でお伺いいたします。

1 件目は、山鹿市の社会体育施設と小中学校の体育施設についてお伺いをいたします。

この件につきましては、私の所管委員会ではありますが、市民の方からお尋ねがありますので、あえてお伺いをいたします。

スポーツは世界共通の人類の文化であるという言葉からスポーツ基本法の前文が始まり、スポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割などが示されています。山

鹿市でもこれまで地域の適性や実情、あるいは新たなスポーツの振興を目指してスポーツ施設の整備が図られてきたと思います。今回の質問は、社会体育施設及び小中学校施設の現状や将来の方向性などについてお尋ねをしたいと思いますので、執行部の明確な答弁をお願いいたします。

本市には、体育館やグラウンドなど、目的に応じた体育施設が整備されてありますが、用途別の数について、そして利用実績について、それから学校にナイター設備があるところがありますが、設置数と利用実績等についてお尋ねをします。

1 回目の質問を終わります。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。木村教育部長。

[教育部長 木村 厚男君 登壇]

○教育部長（木村 厚男君）

富田議員のご質問、社会体育施設の用途別施設数及び利用実績、学校夜間照明設備の設置数及び利用実績についてお答えをいたします。

まず、社会体育施設の用途別の施設数は、本年11月1日現在で体育館が15施設、グラウンドが11施設、野球場が1施設、武道施設が5施設、プールが1施設、テニスコートが2施設でございます。

平成26年度の利用実績は、利用者数でございますが、体育館が24万2300人、グラウンドが12万3500人、野球場が2万4400人、武道施設が1万4900人、プールが9000人、テニスコートが6000人でございます。

続きまして、学校夜間照明設備のうち一般市民に開放している施設数は11施設で、その利用実績は平成26年度の利用件数で211件でございます。

なお、施設によっては、年間80回を超える利用がある施設もございますが、全く利用のない施設もある状況でございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富田君。

[2番 富田 弘海君 登壇]

○2番（富田 弘海君）

ありがとうございました。

私もスポーツ大好きの人間の一人であります。以前は若者も地域に定住し、年間を通じて多様なスポーツ大会が開催され、地域の活性化が図られていました。

菊鹿地域のソフトボール大会で例を挙げますと、集落別の対抗戦ですので、集落で2チーム出場するところもあり、約40チームが参加し、春、夏、秋の大会に加え、

年代別、朝起き、ナイターなどを小中学校の運動場も借りて開催し、大いににぎわっていた記憶がよみがえります。

ただ、現在はというと、過疎化と高齢化の影響で参加チーム数も激減し、朝起き・ナイター大会はなくなり、菊鹿多目的グラウンドのみで細々と開催をされているのが実情であります。

そこで、先ほどのご答弁で、社会体育施設での利用者は市外の方も含まれると思いますが、また延べの数でしょう。合計の42万人強と、大いに健康増進に寄与されていると思います。ただ、利用実績が上がっていない学校夜間照明につきましては、今後、統廃合により閉校する学校もあります。維持管理も含め、今後どのように対応されていかれるのか、お伺いをします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

富田議員の2回目のご質問、利用実績が少ない施設の維持管理を含めた今後の対応についてお答えをいたします。

本市の30余りの社会体育施設につきましては、大半が供用開始後20年以上を経過しており、利用者に安全で快適なスポーツ活動の場を提供し、施設の有効活用を図るためには、老朽化に対応した計画的な改修が必要な状況でございます。

また、用途別の施設の配置につきましても、地域で差が生じている現状でございます。

今後は、通常の維持管理経費のほか改修経費も必要となつてまいりますので、利用の実績を踏まえながら地域ごとの施設の適正配置も念頭に、施設の継続・廃止・譲渡を検討してまいります。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富田君。

〔2番 富田 弘海君 登壇〕

○2番（富田 弘海君）

ありがとうございました。

利用実績が上がっていない施設につきましては、十分なる今後精査・検討をお願いしたいと思います。

次に、3回目、施設の予約方法についてお伺いします。

施設の予約については、市や各種協会が開催する行事については、恐らく優先的



に先行予約されると思いますが、一般のチーム等が練習等で申し込みする場合の予約システムの方法については、抽せんで行われるのか、随時予約できるのか、それから予約取り消しの方法、使用料の入金について、またキャンセルした場合の還付についてどのようになっているのか。また市全体で、あるいは地域ごとに行われているのか、どのような形で行われているのか、お尋ねします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

富田議員の3回目のご質問、施設の予約方法についてお答えをいたします。

現在、カルチャースポーツセンターを初め主要施設におきましては、市の行事や県大会以上の各種大会での計画的な運用を図り、施設の利用促進につなげるため、毎年12月に利用調整会議を開催し、翌年度の予約を受付をしております。利用調整会議において受付を行う予約以外については、山鹿市全域共通の運用で、利用日の前月の1日から先着で予約を受け付けております。

使用料については、原則前納していただくことになっております。

なお、キャンセルによる使用料の還付は、天候や利用者の責めによらないと認められる場合を除き行わないこととしており、通常は利用日の変更で対応いたしているとごさいます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富田君。

〔2番 富田 弘海君 登壇〕

○2番（富田 弘海君）

ありがとうございました。

施設の予約については、市民が利用する際に利用しやすいように全体を一まとめした予約の方法ができないかと考えます。施設の予約システムを一元管理することで、市民への利便性とさらなるサービスの向上が図られ、そのことが健康増進やスポーツの振興につながるかと思いますが、どのように考えておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

富田議員の４回目のご質問、施設の予約システムの一元管理についてお答えをいたします。

熊本県における公共施設予約システムは、「熊本県・市町村公共施設予約システム（通称：ひばりネット『よかくまくん』）」でございますけど、体育施設のほか学校施設、公民館施設、文化施設を対象として熊本県と熊本市で運用をされているところでございます。このシステムに本市の施設も加入することは可能ではございますが、体育施設ばかりでも５年間に２０００万円程度の負担金が必要であり、今のところ、この予約システムに加入することは考えておりません。

また、単独で予約システムを構築するには、導入費用と保守・メンテナンスで相当な費用が必要となり、カルチャースポーツセンターを含めた施設使用料収入が年間１５００万円程度であり、費用対効果が期待できません。

このようなことから、一元管理の必要性は認識しておりますが、施設数や規模を考慮し、当面は、本庁及び各市民センター並びに指定管理者による予約受付での対応を継続してまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富田君。

[２番 富田 弘海君 登壇]

○２番（富田 弘海君）

ありがとうございました。

期待をしておりましたが、一元管理の必要性は認識しておりますが、今の予約システムでは費用対効果が厳しいということですので、当面は現状をご理解いただけるよう市民の方への周知方お願いをいたしまして、１件目の質問を終わります。

次に、山鹿市バイオマスセンターについてお尋ねします。

去る８月２５日、熊本県に大きな被害をもたらした台風１５号により、山鹿市バイオマスセンターの液肥貯留タンクのうち１基が被害に遭い、テント地の屋根が吹き飛ばしました。災害とはいえタンク自体が崩壊していたら液肥が河川に流れ出し、大変な状態になっていたでしょう。不幸中の幸いであったと思います。

私は、６月議会で台風・地震などの自然災害による非常事態の場合、安全管理体制についてお尋ねした際、栃原経済部長の答弁には、液肥貯留タンクは十分な耐用年数を有しており、定期的な施設の点検はもとより、異常気象時の災害に備えた危機管理体制について再度見直しを行い、安全管理体制について計画的に取り組むと言われましたが、現実には災害が発生しました。

そこで、質問の１点目は、部長が答弁された貯留タンクの十分な耐用年数は何年

となっているのか、そして、貯留タンクの現状についてお尋ねします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

富田議員のご質問、液肥貯留タンクの耐用年数及び現況についてお答えいたします。

異常気象時、特に今回の台風に備えた危機管理体制としまして、職員による関係施設への巡回を実施しております。バイオマスセンターにおいては、災害防止対策として、タンク周囲への土のう積みと施設内の瓦れき類など不要物の撤去、また全ての扉・窓の施錠など、委託業者へ早目の対策徹底を図りました。

しかし、8月25日に熊本県に上陸しました風速40メートル超える台風15号によりまして、主に堆肥棟の屋根・扉と液肥貯留タンク2基のうち1基の屋根が被災しました。被災後すぐ設計会社等を通じて災害復旧対策を検討しておりますが、液肥貯留タンク内の液肥を空の状態にしなければ、屋根の対策工事及びタンク内設備の点検・整備などが実施できない状況にあります。

被災以来、畜産農家及び耕種農家と連携をしまして優先的に液肥の搬出に努めており、被災後95%だった液肥残量は現在60%程度に減量しております。

また、液肥貯留タンク本体の耐用年数ですが、メーカーの設計部署による耐用年数としては20年以上を見込んでおり、他の地域の事例でも、それ以上に維持管理がされております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富田君。

〔2番 富田 弘海君 登壇〕

○2番（富田 弘海君）

ありがとうございました。

耐用年数20年ということは、供用開始後10年を経過していますので、残り10年になります。他の施設も同じくらいの耐用年数かと思いますが、今後の維持管理に当たっては十分な検討を要するかと思います。

今回、災害を受けた貯留タンクの屋根については、欧州産とも聞いた覚えがあります。現在、応急手当でもされていないようですし、設計及び施工業者を交えた原因究明をされたのか。今後、液肥の利用実績や災害の被害額などを考慮し、修繕あるいは取り壊しを行うのか、どのように考えておられるのか、お伺いをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

2回目のご質問、台風被災の原因及び今後の対策についてお答えいたします。

今回の台風による液肥貯留タンク屋根の被災原因としては、本液肥タンクの屋根部分は、厚手のテント生地を縫製し、タンク1基につき全体を1枚のテントで覆っておりますので、今回の台風によりまして、瓦れき等が飛散したことによる破損部分から強風が入り、屋根全体が剥がれたものと推測されます。

今後の対策としましては、さきにも申しましたとおり、液肥タンク内を空にしなければならぬ状況にありますので、継続して液肥の搬出に努めてまいります。

また、貯留タンク本体と屋根のテント部分は、議員申されたとおり欧州製であり、建設計画当時は液肥タンクの主流でありましたので採用しております。今回被災した屋根部分を原形復旧するか、別の対策を含めて、現在検討を進めております。

いずれにしましても、一刻も早くタンク内の液肥を空にし、液肥貯留施設の整備点検及び清掃を行い、今後の対策を決定したいと考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富田君。

〔2番 富田 弘海君 登壇〕

○2番（富田 弘海君）

ありがとうございました。

山鹿市バイオマスセンターの供用開始から10年を経過しています。たしか計画当時は、市の負担はなくても採算ベースがとれる施設として説明があっていたかと思います。それから、施設の利用については一部地域に限定されています。堆肥の搬出量では、平成21年度をピークに昨年度は半分以下まで減少しております。さらに施設は、年々老朽化しており、数年前から多額の一般財源が要るような施設となっております。

このような状況を踏まえ、施設利用に伴う地域外からの原料搬入、また地元環境保全協定の見直し、さらに管理運営に係る民間活力の導入など、今後、バイオマスセンターの施設運営をどのようにして考えられているかお尋ねします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

3 回目のご質問、バイオマスセンターの今後の運営方法についてお答えいたします。

バイオマスセンターの供用開始から本年度10年を迎えるに当たりまして、これまでの運営方法及び維持管理について検証を行い、課題・問題点の整理と費用対効果を含め、今後の有効利用に向けた検討を行っているところです。

現在、利用率低下の対策として、鹿本町以外からの原料搬入を含めた優良堆肥の生産・販売体制の確立を図れるよう、環境保全協定の見直しとともに地元及び畜産農家との協議を進めております。

また、維持管理費増加の対策として、定期的な点検・整備に努めることにより機械・設備など長寿命化を図りつつ、さらに現在、電力の固定買取制度を活用するなどとした民間企業からの事業提案を受けており、費用対効果も考慮した上で、早い時期に関係機関及び専門家を交えて最適な運営管理方法を検討し、今後のバイオマスセンターの有効活用を図っていきます。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富田君。

[ 2 番 富田 弘海君 登壇 ]

○2 番（富田 弘海君）

ありがとうございました。

ただいまのご答弁で、「利用率低下の対策として環境保全協定の見直しとともに、地元及び畜産農家との協議を進めていく」ということですので、経過につきましては今後の行方を見守っていきたいと思っております。

それでは最後に、生ごみの処理方針についてお尋ねします。

この件につきましても、6 月議会の部長の答弁で、「生ごみの処理方針については、早い時期に処理方針を示す」との答弁をされていたので、その後の経緯について伺います。

また、この施設は生ごみを利用していますので、一般廃棄物処理施設となっています。これを踏まえて、堆肥化施設を有効活用するため、どのように活用しようとしているのか、経済部長にお伺いします。

そして、焼却施設も平成30年度に完成の予定です。山鹿市として全体の生ごみ処理方針についてどのように考えておられるのか中嶋市長にお尋ねをしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

[経済部長 栃原 栄一君 登壇]

○経済部長（栃原 栄一君）

4回目のご質問、バイオマスセンターの生ごみ処理方針及び堆肥化処理施設の有効活用についてお答えいたします。

資源循環型社会の構築に向け、生ごみについては堆肥化を行い、農地へ還元する方向で進めてまいりました。しかし、家庭用生ごみの排出については、ビニール袋や異物が混入しており、改善に向けて環境部局との協議を重ねながら、収集所への職員配置や地元説明などを継続しながら努めてまいりましたが、現在においても改善は見込めず、生ごみの堆肥化による優良な堆肥の製造には至っていない状況であります。

このことから、今以上に分別精度の向上を住民の皆様へ要求することは非常に厳しく、今後においてもバイオマスセンターにおいて、家庭用生ごみを堆肥化することは難しいと判断したところです。

また、堆肥化処理施設については、事業系生ごみと集落排水汚泥などを利活用し、良質な堆肥生産に努めてまいります。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

中嶋市長。

[市長 中嶋 憲正君 登壇]

○市長（中嶋 憲正君）

ただいまの富田議員のご質問、市の全体的な生ごみの処理方針についてお答えいたします。

これまでの方針は、さらなる資源循環型社会及び低炭素社会の構築実現に向けた取り組みとして、可能な限りの資源化・減量化を行うことで、クリーンセンター使用期限以降は、ごみを出さない、ごみを燃やさない、焼却施設を持たないというゼロウェイスト運動を実施しておりました。

その後、平成23年6月の定例会の冒頭においてご答弁申し上げましたとおり、将来にわたり安定的かつ継続的な処理を第一に考え、現状の焼却技術の著しい進歩や経費等を再検討し、現行の焼却施設建設に向けて進めているものでございます。

その後、生ごみに関するさまざまな施策に対して調査・検証を重ねてまいりました。特に、バイオマスセンターの利活用の実態や生ごみ収集運搬の費用対効果、市民負担などを調査し、あわせて焼却施設の規模決定に影響を及ぼす燃やすごみ量や処理費などを踏まえて精査した上で、生ごみの利用効果が見込まれないと判断し、

燃やすごみとして収集することとしたものであります。

なお、所期の目的である資源循環型社会の構築を引き続き目指すとともに、環境に対する市民意識の向上を図る上でも、生ごみの自家処理をあわせて推進していく考えでございます。

以上、答弁いたします。

○議長（藤原 弘君）

以上で、富田君の一般質問は終了いたしました。

次の通告順により、稲葉 昇君の発言を許します。稲葉君。

[ 4 番 稲葉 昇君 登壇 ]

○4 番（稲葉 昇君）

皆さん、こんにちは。

議席番号4番の稲葉 昇です。

今回、一般質問を2点、今後の対策、あるいは今後の課題をお尋ねいたします。

1年たつのも早いもので、ことしも残すところ1カ月になりました。自分の歳もこんなに早くとるかなと感じるところでもございます。

今回、振り返りますと、長年に至って、熊本を中心に来なかった台風が8月25日の早朝から到来し、山鹿市においても、農産物や建物、畜舎、それに電気の停電、それぞれに被害に遭われたことと思います。まずもってお見舞いを申し上げるところです。山鹿市行政にとってもしっかりとした取り組みがなされていると思います。よろしくお願いします。

台風の爪跡を見ますと、農作物の被害がひどく、平成3年のときの台風を思わせる被害でした。その後、秋の実り、稲穂が出穂する時期になったところにイノシシが出没し始め、例年になく最も頭数が多いし、農家の方々も手に負えない状態になり、諦めた農家も見受けるようになりました。

そこで、1点目、イノシシによる農作物の被害状況について質問いたします。

私も過去何回も質問いたしましたが、その結果は、山鹿の行政としましては大変ご理解をいただき、助成をいただき、農家の方々も大変喜んでおられます。

そこで、イノシシの農作物の被害状況と過去5年間の状況とイノシシの過去5年間に捕獲の頭数の実績をお願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。栃原経済部長。

[経済部長 栃原 栄一君 登壇]

○経済部長（栃原 栄一君）

稲葉議員の一般質問、イノシシによる農作物の被害状況と捕獲頭数についてお答

えいたします。

まず、被害状況につきまして、昨年より過去５年間をご報告申し上げます。

平成22年度は、被害面積31.5ヘクタールで被害額が1438万7000円。平成23年度が、被害面積26.6ヘクタールで被害額が847万8000円。平成24年度が、被害面積45.3ヘクタールで被害額が1303万1000円。平成25年度は、被害面積25.4ヘクタールで被害額が1043万1000円。平成26年度は、被害面積19.9ヘクタールで被害額が705万円となっております。

また、イノシシの捕獲頭数は、平成22年度が1946頭で、平成23年度が1896頭、平成24年度が1818頭、平成25年度が1406頭、平成26年度が1437頭で、本年度は９月末現在で462頭の捕獲実績がございます。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

稲葉君。

〔４番 稲葉 昇君 登壇〕

○４番（稲葉 昇君）

ありがとうございました。

実績を見ますと、平成25年から平成26年については被害の減少が見られる。大変効果があったと思います。

次に、２回目は、これまでの被害防止対策について、過去５年間の取り組みとして、国の鳥獣被害緊急総合対策事業や山鹿市単独事業として購入費をお尋ねいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

２回目のご質問、これまでの被害防止対策についてお答えいたします。

有害鳥獣被害防止対策、特にイノシシの被害防止対策につきましては、昨年から過去５年間の取り組みとして、国の鳥獣被害緊急総合対策事業や市単独事業で電気柵や防護柵設置費用の補助、箱わなの購入費用の補助などを実施しております。

内訳としましては、電気柵の設置が690件、補助総額1216万4000円、防護柵の設置が146地区、延長265キロメートル、補助総額１億7185万円、箱わな購入補助として92件、補助総額288万9000円、新規狩猟免許取得者への補助として79人75万円の支援を行っております。

効果としましては、防護柵の設置等対策を実施した地区では被害が減少してきて



おりますが、最近では今まで被害のなかった山鹿地区や鹿央地区で新たな被害が発生してきております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

稲葉君。

[ 4 番 稲葉 昇君 登壇 ]

○4番（稲葉 昇君）

ありがとうございました。

実績を見ますと、5年間で事業費としては約2億円になり、また捕獲数の頭数といたしましては8513頭、1頭当たり捕獲金を7000円で計算しますと約6000万円。いずれにしましても、今後、国・県・市挙げて取り組んでいかなければならないかと思っています。

ことしについては、台風で山の食べ物がなかったからとは思いますが、今後の対策費として、捕獲に取り組んでいただきたいと思います。

3回目は、今後の対策について、猟友会の会員、市内全体でどれくらいおられるのかをお尋ねいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

[経済部長 栃原 栄一君 登壇]

○経済部長（栃原 栄一君）

3回目のご質問、猟友会の会員数についてお答えします。

議員お尋ねの猟友会の会員数でございますが、市内全体で139名でございます。

内訳としまして、山鹿地区53名、鹿北地区39名、菊鹿地区22名、鹿本地区14名、鹿央地区11名でございます。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

稲葉君。

[ 4 番 稲葉 昇君 登壇 ]

○4番（稲葉 昇君）

ありがとうございました。

市内全体で約139名という方がおられますが、今にとっては100名近い人ではないかというふうに思います。非常に後継者も少なく、高齢化されていると思います。猟友会の方々も、捕獲するに当たっては趣味でとられていると思います。

そこで、山鹿市として、猟友会が一体となって計画的に地域を分け、捕獲事業に

取り組みをお願いしたいわけでもございます。そして、日当でも支給するならばどうかということを考えるわけでもございます。そしてまた、1頭当たりの今の金額を上乗せするかというふうなことも思います。

私たち、つい先月、研修視察に岡山県の美作市に空き家バンクの取り組みについて研修に行きましたが、その地域も、鹿北より山間地でしたが、そこでもイノシシの防護柵が張りめぐらされていました。そこで、イノシシの捕獲について尋ねたところ、たくさんとれているという話になされ、隣の県の鳥取県では、その地域で年間5000頭捕獲されるということで、1頭当たり2万円を支給されているそうです。それで、捕獲金だけで約1億円出しておられるという、そういうお話も聞いたわけでもございます。それでもふえる一方だそうです。

そのほか鹿のほうも多く、鹿のほうはまだ被害がひどいそうでもございます。

それに、私たち、5年前に佐賀県の武雄市にイノシシ課の取り組みについて研修いたしました。

そのイノシシの被害対策としまして、緊急駆除が発令され、4月から5月まで、佐賀県一円で一斉捕獲が実施されると。それから6月から7月まで、口蹄疫対策駆除強化という形でまた一斉駆除がなされると。いずれにしても、そういったことが2回ほどありますが、11月からの解禁だけでは当地区での被害が増大するばかりと私は思うわけでもございます。市長として思い切った対策が必要だと思います。よろしく願いをいたしておきます。

次に、一般質問の2点目、消防団の組織と今後の課題について質問いたします。

まずは、消防団の皆さん方の日夜、災害、火災などに出動してご活躍していただき、山鹿市民が安心して暮らせる日々を大変感謝しているところです。

ところで、山鹿市が合併をいたしまして10年たち、消防団員の減少が顕著に見られ、消防力の低下につながっているように思います。そこで、合併してからの減少率を教えてくださいたいと思います。

それと、平成27年3月に機能別団員制度を始めたわけでもございますが、現在の機能別団員数の旧町ごとの団員数を教えてくださいたいと思います。

よろしく願いします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。内野消防長。

〔消防本部消防長 内野 輝雄君 登壇〕

○消防本部消防長（内野 輝雄君）

稲葉議員の一般質問、消防団の組織と今後の課題についての1点目、合併してからの団員数の減少率についてお答えいたします。

平成17年度の市町合併当初は2415人の団員数でありました。平成20年度まで団員数は横ばい状態が続いておりますが、平成21年度から年に1～2%の減少を続け、現在の団員数は2102人となっております。

旧市町別で見ますと、山鹿市は698人で3%の減、鹿北町は317人で29%の減、菊鹿町は487人で9%の減、鹿本町は341人で20%の減、鹿央町は259人で14%の減となっております。減少率で見ますと、鹿北町が29%で最も高い結果となっております。

山鹿市全体の団員数は、ここ数年減少してはおりますが、同規模の自治体では2000人を切っているところもあります。比較するとまだ高い水準にあります。

2点目、現在の機能別団員数についてお答えいたします。

平成27年7月1日現在で52人が入団しており、旧市町別で見ますと、山鹿市は11人、鹿北町3人、菊鹿町12人、鹿本町15人、鹿央町11人です。

第1次の募集につきましては以上の結果となっておりますけども、未加入地区もありますので、継続して定員90人を目標に加入推進してまいります。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

稲葉君。

[4番 稲葉 昇君 登壇]

○4番（稲葉 昇君）

ありがとうございました。

減少率を比べてみますと、やはり鹿北地区が一番減少率が高いようです。約29%ということでもございますが、120名ぐらい少なくなっているんじゃないかと思えます。

続きまして、機能別団員の加入率にしても、鹿北町では3名ということでもございますが、何かの間違いかなというふうなことを思います。そういった中、私も地域に説得をしながら、今、加入促進をしているところでもございます。

団員数が一番少ないところが一番この機能別が多くなければならないところでもございます。定員が90名の目標というふうなことで、今現在52名です。いち早く90名まで達するよう、勧誘に努めていただきたいというふうに思います。

ところで、機能別団員の規則の中で、昼間の火災時にただ車を運転するばかりで、団員が来るまで操作してはならないそうですね。一刻も早く放水をしなければならないところですが、そこを疑問に思うところでもございます。よろしく願います。

次に、2点目、火災が発生した時に、山鹿市の消防本部、各署所からの一番遠い地域へ出動したとして、所要時間がどれくらいかかるのかを教えてくださいたいと

思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。内野消防長。

〔消防本部消防長 内野 輝雄君 登壇〕

○消防本部消防長（内野 輝雄君）

2回目の質問、各署所から旧町の一番遠い地区までの所要時間についてお答えいたします。

まず、山鹿市消防本部には、山鹿市全域を管轄する山鹿消防署、鹿本町・菊鹿町を管轄する東分署、鹿北町を管轄する鹿北分署があります。当消防本部で所要時間を調査しましたところ、山鹿消防署から最も遠い中ノ浦地区で距離にして9.8キロメートル、緊急走行で14分の時間を要します。

次に、東分署から最も遠い山の神地区で距離にして10.6キロメートル、緊急走行で16分の時間を要します。

次に、鹿北分署から最も遠い茂田井地区で距離にして11.7キロメートル、緊急走行で17分の時間を要します。

以上が、水槽付ポンプ自動車での走行結果となっております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

稲葉君。

〔4番 稲葉 昇君 登壇〕

○4番（稲葉 昇君）

ありがとうございました。

いずれにしましても、出火した場合は、時間を見ますと、1軒は全焼が免れないように思います。

もし、昼間の時間帯で消防団員が、自動車が全然動かないということであれば、近隣に家があるところでは、隣に移るのは非常に早くなるんじゃないかというふうに思います。やはりそういった中、地域自体にすぐ消防自動車が動けるようにというふうに思っているところでもございます。いずれにしても、大きな課題ということでもございます。

そこで、結論として要望を市長に出したいと思います。

過疎対策として、団員が集落に昼間誰もいない状態で、年々多くなると思います。そこで、各事業所や会社などに消防自動車の配置をするならばというふうな案でもございます。それから、また各集落について消火栓がございまして。この消火栓がありますが、ホースや筒先などのボックスの設置が非常に少ないわけでもございます。

そういった設置を早くするならば、私たちでもすぐ自動車も動かさなくて、それに突っ込んで水をかけるけども、ただ、消火栓だけで立つとるわけでもございます。ホースは、いわゆる集落の中心地に取りにいて、そこにつながにゃいかんという状態がいっぱいあるわけでございます。どこにでも消火栓が、今、赤いボックスですけども、あれがどこにでもついていたら、50～60歳ぐらいの人でもすぐそこから開けて、すぐ消火に当たって、自動車も動かさなくて済むようでもございますので、その設置をいち早く市長に判断をお願いしたいというふうに思います。

以上、そういったことで私の質問を終わります。以上です。

○議長（藤原 弘君）

以上で、稲葉君の一般質問は終了いたしました。

ここで、昼食のため休憩いたします。

午後 0 時 03 分 休憩

○

午後 1 時 15 分 開議

○議長（藤原 弘君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次の通告順により、北原 昭三君の発言を許します。北原君。

[ 7 番 北原 昭三君 登壇 ]

○ 7 番（北原 昭三君）

皆様、こんにちは。

議席番号 7 番、公明党の北原 昭三でございます。

発言通告に従いまして、一問一答にて今回 4 件の質問をいたします。よろしくお願いいたします。

まず、1 件目、生活困窮者対策についてでございます。

ことし 4 月から、生活困窮者自立支援制度がスタートいたしました。生活困窮者と一言に言っても、経済面や家族関係、精神的な問題など多くの理由があり、複雑に絡み合っている場合があります。そのような人たちはなかなか声を上げられず、支援になかなかとり着けなかったり、既存の制度では救済されず、社会的に孤立しているケースが少なくありません。現在、約 900 の地方自治体におきまして、必須事業であります相談窓口が置かれています。新たな人生の挑戦を後押しする画期的な法律でございます。

生活困窮者自立支援制度の周知の徹底はもちろん、関係部署や関係機関との連携体制を構築し、早期発見、早期支援を行うことが大切であり、具体的な支援策をつくる積極的な取り組みが不可欠と思います。

それでは、質問をいたします。

まず、初めに、新たな生活困窮者自立支援制度の詳細についてお伺いをいたします。

また、相談窓口の対応はどのようになっておりますでしょうか。

以上、お尋ねいたします。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。戸次福祉部長。

[福祉部長 戸次 由夫君 登壇]

○福祉部長（戸次 由夫君）

生活困窮者対策についてお答えいたします。

まず、生活困窮者自立支援制度の概要でございます。

病気や失業、社会的孤立などの問題を抱え、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある方、いわゆる、生活保護に至る前の段階の方を対象に自立支援の強化を図るものでございます。

内容としましては、困窮にかかわる各種相談に応じ、安定した生活に向けて、仕事や住まい、子供の学習など、さまざまな面で幅広く包括的に支援していく制度でございます。

次に、相談窓口につきましては、現在市役所1階の福祉課内に「生活自立相談窓口」を設置し、委託事業所からの2名の専門相談支援員が常駐しておりまして、相談に当たっております。

相談支援員は、支援を必要とする人の意向を尊重しながら、一人一人の状況に応じて適切な支援を行いまして、必要に応じまして支援プランを策定いたしております。

支援プランの中の主な支援メニューといたしましては、離職などで住むところが無くなった方や住む場所を失うおそれが高い方に対しまして、就職活動をすることを条件に、一定期間、家賃相当を支給する「住居確保給付金」、それから家計の管理ができず借金の連鎖をとめられないような方に対し、相談や指導、貸し付けのあっせんなどを行う「家計相談支援事業」などがございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[7番 北原 昭三君 登壇]

○7番（北原 昭三君）

生活自立相談窓口を設置されて、そしてしっかりと相談に対応していただいております。

るようで安心をいたしました。

それでは、2回目の質問に入ります。

1点目は、これまで生活相談があっても生活保護に至らなかったり、既存の制度では救済されなかったケースなど、当市における生活困窮者の実態についてお伺いをいたします。

2点目は、手を差し伸べるアウトリーチ推進を含めた関係部署、関連機関との連携についてお伺いをいたします。

相談した後の出口戦略として重要な任意事業については、実施するかどうかは各自治体に任されております。特に、就労準備事業などにおきましては、非正規雇用者が4割近くを占める現在、一度は就職をして危機を脱しても、また失業して危機に陥ることは珍しくありません。第2、第3の危機を想定した長期的な取り組みが必要となります。何らかの事情において就労に困難を抱える生活困窮者の生活を安定させ、再び社会の中で居場所を見つけてもらうための就労困難者に対する支援事業はどのようになっていますでしょうか。

よろしく願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。戸次福祉部長。

〔福祉部長 戸次 由夫君 登壇〕

○福祉部長（戸次 由夫君）

生活困窮者の実態につきまして、相談窓口での実績に基づきお答えいたします。

事業開始の本年5月から10月までの相談件数は84件でございました。そのうち、支援プランを策定したものが8件、継続的に支援しているものが28件、支援を終えたものが48件となっております。

継続的に支援しているものの内容としましては、いろんな関係機関につないだ後も、結果をフォローし見守りが必要なケース、課題が重複しており困窮状態が悪化しないよう見守りと支援が必要なケースなどがございます。

また、支援を終えたものの主な理由は、生活保護の申請をされたケース、情報提供や相談対応のみで終わったケース、相談対応の途中で就労が決定したケースなどがございます。

次に、就労困難者に対する事業につきましてお尋ねでございますが、就労準備支援事業がございます。社会に出ることに不安があり、他人とうまくコミュニケーションができないといった理由から、すぐに職につくことが難しい方に対しまして、プログラムに沿って就労に向けたサポートや就労機会の提供を行います。

具体的には、委託先の県が実施主体となり、生活習慣形成のための指導、それか

ら訓練、就労の前段として必要な社会的能力の習得、事業所での就労体験の場の提供や、就労に向けた技法や知識の取得などの支援がございます。

市が直接やる事業と県との事業の組み合わせで、県との連携を深めながら事業を進めておるというような状況でございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[ 7 番 北原 昭三君 登壇 ]

○ 7 番（北原 昭三君）

3 回目は、フードバンクを利用した取り組みについてお聞きをいたしたいと思います。

食品の規格外品など引き取り、福祉施設等へ無料で提供するフードバンクと呼ばれる団体活動がございます。農林水産省では、まだ食べられるにもかかわらず廃棄してしまう食品を削減するために、こうした取り組みを有効に活用していくことも必要ではないかと考えていますとホームページに掲載をされておりました。

1 点目、他市でも、行政主導ではございませんけども、本市にフードバンクを利用した取り組みはありますでしょうか。また、今後、取り組む計画はありますか。

2 点目、子供たちへの支援は次の時代を担う大人を育てることでもあり、子供たちが将来希望を持っていけるような貧困の連鎖を防止するとともに、手厚い政策を着実に進めていかなければなりません。日常的な生活習慣も含め、進学に関する支援や養育に関する保護者への助言など、生活困窮者世帯の子供への学習支援について伺いをいたします。

3 点目は、平成27年度生活困窮者自立支援法等関連予算612億円がありますが、先ほどの答弁と重複する部分があるかもしれませんけども、任意事業としてどのような事業があるか伺いをいたします。

よろしく願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。戸次福祉部長。

[福祉部長 戸次 由夫君 登壇]

○福祉部長（戸次 由夫君）

まず、フードバンクを活用した取り組みについてお答えいたします。

フードバンクといいますと、食品メーカーとNPOなどの民間団体の連携により、品質には問題のないような商品価値を失った食品を生活困窮者などに供給する活動というふうに理解をいたしております。



現在、本市では、NPOなどによるそのような取り組みは実施されておきませんので、今後とも活用という面においても取り組む予定はないというような状況でございます。

しかし、困窮などにより、食料がない、食事がとれないといった緊急に支援が必要な場合は、生活保護において即時に保護を開始するという制度がございますので、これまでも対応した実績がございますので、急を要する場合はこの制度を活用してまいりたいというふうに考えております。

2点目の子供への学習支援につきましては県に委託をしておきまして、生活困窮者及び生活保護の被保護者の子供などを対象に、公民館などの公共施設等で、学習支援員が宿題や授業の復習等を行っております。また、その事業の中では、日常的生活習慣、仲間との出会い活動ができる居場所づくり、高校中退の防止支援、子供の進学についての保護者への助言など、子供と保護者の双方に対して必要な支援を行っております。

3点目の任意事業につきましては、ただいま説明いたしました「子供への学習支援事業」、2回目の質問でご紹介いたしました「就労準備支援事業」、それ以外でも、住居のない生活困窮者に対して、一定期間、宿泊場所や衣食の提供等を行う「一時生活支援事業」、家計に関する相談、家計管理に関する指導、それから貸し付けのあっせん等を行う「家計相談支援事業」などがございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[ 7 番 北原 昭三君 登壇 ]

○7番（北原 昭三君）

いろんな相談があると思いますけども、これからも相談した人が「よかった」と言えるような生活困窮者に対する対応をよろしく願いをいたします。

2件目、パーキング・パーミットの導入についてお伺いをいたします。

設置された障害者用駐車スペースに心ない人たちの無断駐車や健常者が市販の車椅子マークを車に張って違法駐車をしているケースなども多くあり、その場所を本当に必要とする車椅子使用者などの歩行困難者や内部障害者が利用できないという実態がございます。

私は、本来、思いやりの心と常識を持てば、このような制度は不必要とは思いますが、現実といたしましていろんな問題があります。その対策の一つとして、パーキング・パーミットという制度が拡大をされております。この制度の内容と、そしてまた導入自治体の取り組みにつきましてお伺いをいたします。

よろしくお願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。戸次福祉部長。

〔福祉部長 戸次 由夫君 登壇〕

○福祉部長（戸次 由夫君）

パーキング・パーミットの導入についてお答えいたします。

パーキング・パーミット制度は、公共施設や店舗などさまざまな施設に設置されている障害者用駐車場を適切に利用していただくために、障害のある方などに共通の利用券を交付しまして、駐車スペースの確保を図る制度でございます。現在全国では、九州沖縄全県を含めまして32府県、それから埼玉県内の2市で実施をされており、利用者数や協力施設の増加に伴い、全国的に各自治体間の相互利用も推進されている状況でございます。

熊本県におきましては、平成19年度から「熊本県ハートフルパス制度」を県内市町村で統一して実施しております。平成26年度末の利用券の交付件数は、県内で3万2239名、そのうち山鹿市の方は872名というふうになっております。

また、協力施設数は県内で2020施設、うち山鹿市内は59施設となっております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

〔7番 北原 昭三君 登壇〕

○7番（北原 昭三君）

それでは、2回目の質問をいたします。

先ほど各自治体の取り組みについてご説明がありましたが、この取り組みを通じて、障害のない方の無断駐車をなくすことはもちろんのこと、車を運転する方々の意識を変えていきたい。そして、住んでいる人が譲り合い、思いやりの心を持ち、みんなが安心して暮らしていける社会をつくっていくべきと私は思います。

2006年に佐賀県で初めて導入をされ、先ほどの答弁にもございましたけども、現在、32府県に拡大され、市では、埼玉県の2市で導入がされております。

山鹿市としまして、このパーキング・パーミット制度の導入についてのご見解をよろしくお願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。戸次福祉部長。

〔福祉部長 戸次 由夫君 登壇〕

○福祉部長（戸次 由夫君）

パーキング・パーミットの導入について、山鹿市独自の実施についてお答えいたします。

県レベルでなく市レベルで独自で実施している埼玉県の２市に問い合わせをいたしましたところ、埼玉県では当該事業を実施していないために独自で実施しており、今後埼玉県が事業を実施することとなれば、市も県の事業に移行する予定であるという旨の回答をいただいております。

本市独自の実施につきましては、既に「熊本県ハートフルパス制度」が実施されておりまして、県内及び市内の利用者数も増加し、良好に実施されている状況でありますので、市独自で同様の制度を重ねて導入するのではなく、県や他の市町村と連携を深めながら、現在の「ハートフルパス制度」のより一層の利用に向けて、対象者への周知や協力施設の拡大等に努めることが、より効果の高い方策であるというふうに考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[ 7 番 北原 昭三君 登壇 ]

○ 7 番（北原 昭三君）

まだまだ対象者の方への周知が必要と思いますので、よろしくお願いをいたします。

3 回目の質問をいたします。

本庁舎前に 4 台分の障害者用駐車場があります。大変ありがたいことだと思っております。しかし、障害者の方の声でございますけども、「市長さんの社用車の駐車場には屋根がついており、体が不自由な身体障害者のところは屋根がない。雨が降るときは大変だとの話でございます。やはり健常者には障害者のことがわからんのかな」と言われておりました。

この障害者駐車場には屋根をつけたらいけないとか、つけられない理由は何でしょうか、市長にお伺いをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。中嶋市長。

[ 市長 中嶋 憲正君 登壇 ]

○市長（中嶋 憲正君）

北原議員の 3 回目のご質問にお答えいたします。

障害がある方々の立場や思いは市長として深く認識し、各施設において支援に努めているところであります。さまざまな会合等でこれらの方々と接する中で、いろ

いろなご意見、ご要望を聞く機会がございます。それらの声を真摯に受けとめ、障害による不便を感じることなく、自立した生活を送ることができる環境整備、生き生きと暮らしていける社会の実現に向けて、今後も取り組みを深めてまいりたいと考えております。

新庁舎における障害者用駐車場につきましては、さきに述べました考え方に基づき、玄関へのアクセスがより近く、通行しやすい場所への配置ということで現在の場所に設置したものでありますが、屋根の設置のご要望もお聞きいたしているところでございます。

現在、雨の日など車の乗りおりや移動において、必要な場合には職員が介助に向かうなど人的な対応を行っているところであります。また、設備面での対応についても、建築基準法の制約などクリアしなければならない問題もございますので、今後とも対応策を検討してまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[ 7 番 北原 昭三君 登壇 ]

○ 7 番（北原 昭三君）

介助する人的な支援・対応をいただきまして、まことにありがとうございます。

先ほどの答弁の中で、建築基準法の規制などをクリアしなければならないとの答弁でありました。建築基準法ってどういうものかなということで見たんですけども、昭和25年5月24日法律第201号は、国民の生命・健康・財産の保護のため、建築物の敷地・設備・構造・用途について、その最低基準を定めた日本の法律であると記載をされておりました。この構造・用途、何かに規制がかかっているんでしょうけども、いずれにしても、この梅雨時期などは大変困っておられますので、早急な対応策をお願いをいたします。

3 件目、災害廃棄物処理計画策定の推進についてお伺いをいたします。

災害廃棄物処理計画とは、災害に対する事前体制の整備と市民・事業者・行政の連携に基づく災害廃棄物の円滑な処理を促進するための計画であります。

東日本大震災や広島市の土砂災害、本年発生した関東・東北豪雨など、近年は膨大な廃棄物をもたらす大規模な自然災害が頻発しております。しかしながら、全国の自治体では、災害廃棄物処理計画の策定が進んでおらず、予期せぬ災害に備えた対策が十分とは言えない状況です。

本年9月、鬼怒川の堤防決壊により市街地が広範囲に浸水した茨城県常総市では、路上への不法投棄や不衛生で悪臭を放つ膨大な量のごみや瓦れきの対応に追われ、

復旧作業に支障を来しました。

国は自治体に対し、大規模な災害に備え、事前に仮置き場や処理方法を定めた災害廃棄物処理の策定を求めています。

平成26年から平成27年にかけて環境省が実施した調査によりますと、全国の災害廃棄物処理は都道府県において約2割、市区市町村においては約3割しか策定を済ませてないことがわかっております。市区市町村に計画作成の義務はないものの、災害の際に混乱が生じるため、本年5月から環境省では、大規模災害発生時における災害廃棄物対策検討会を定期的に開催し、連絡協議会などを通じて各自治体に処理計画策定の推進を促しているとあります。

山鹿市循環型社会形成推進地域計画の中に、災害時の廃棄物処理に関する事項とあり、山鹿市災害廃棄物処理計画に基づき、熊本市を初めとする近隣市町と連携し、最終処分地の確保や処理体制の整備に努め、早期の都市機能を図るというふうに書いてあります。

そこで、質問をいたします。

山鹿市の災害廃棄物処理計画はどのようになっていますでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。阿蘇品市民部長。

〔市民部長 阿蘇品 貴司君 登壇〕

○市民部長（阿蘇品 貴司君）

ただいまの山鹿市災害廃棄物処理計画についてお答えいたします。

これまで、災害により生じた廃棄物の処理につきましては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、災害が発生した市町村が主体となり、処理が実施されてきました。

その後、平成23年に発生した東日本大震災や近年の災害における経験により、事前の備えや大規模災害時においても適切な処理を確保しつつ、円滑かつ迅速にこれを行うための措置が必要であることから、山鹿市災害廃棄物処理計画を平成24年度末に作成したところでございます。

これにつきましては、阪神淡路大震災を踏まえ、平成10年に環境省が策定しました「震災廃棄物対策指針」及び平成17年の「水害廃棄物対策指針」に基づくものでございまして、内部マニュアルとして活用しているところでございます。

ちなみに、今年度、山鹿市にも大きな被害をもたらしました台風15号により発生しました災害廃棄物に対しましては、この災害廃棄物処理計画に基づきまして、収集・運搬・処理を執行できたものと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[ 7 番 北原 昭三君 登壇 ]

○ 7 番（北原 昭三君）

国立環境研究所災害廃棄物情報プラットフォームの情報を見ますと、災害廃棄物処理計画を作成している自治体といたしまして、全国で7県12市2町となっております。近くでは菊池市が、2011年、平成23年10月、菊池市災害廃棄物処理計画を作成をされております。

先ほどご答弁がありましたけども、山鹿市としまして、平成24年度末に策定済みということでありました。それでは、その策定済みの内容につきまして、9点につきまして質問をいたします。

1点目、組織体制や役割分担はどのようになっていますか。2点目、地域特性の整理と災害時に想定される課題の抽出はどのようになっていますか。3点目、発生量推計と処理可能量はどのようになっていますか。4点目、基本的な処理フローはどのようになっていますか。5点目、仮置き場の確保並びに候補地はどのようにお考えでしょうか。6点目、他機関との連携方法はどのようになっていますか。7点目、仮設トイレの設置はどのように考えられておられますか。8点目、災害廃棄物の処理に関する住民への周知はどのようにされておられますか。9点目、定期的な計画見直しの仕組みづくりが可能となっておりますでしょうか。

以上、お伺いをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。阿蘇品市民部長。

[市民部長 阿蘇品 貴司君 登壇]

○市民部長（阿蘇品 貴司君）

災害廃棄物処理計画の内容についてお答えいたします。

議員お尋ねの項目の詳細につきましては、計画の中におきまして、ほぼ網羅しているところでございます。

その中でも主なものといたしまして、1点目の組織体制や役割分担につきましては、組織体制としまして、大規模な災害が発生した場合は、山鹿市地域防災計画に基づき対策本部が設置され、組織系統図において環境班が配置されます。環境班では、ごみの搬入先である広域行政事務組合と早期に協議し、収集、運搬及び処理の総括的な応急体制を確立し、災害廃棄物の指導、清掃・し尿・じんかい等の処理、その他環境衛生指導に関することなどを実施してまいります。

次に、発生量推計と処理可能能力につきましては、瓦れき類の発生量に関しまして、震災廃棄物対策指針の計算式に基づき発生量を算出しており、市全体が被災した場合の想定としまして、可燃物6875トン、不燃物1万9530トンを見込んでいます。

また、床上、床下浸水した家庭から発生する生活ごみや粗大ごみの発生量に関しましては、水害廃棄物対策指針の計算式に基づき発生量を算出しており、同じく床上2326棟、床下345棟、発生量8844トン进行想定しております。

しかし、現在のクリーンセンターの処理可能能力は1日120トンとなっておりますので、国や県を通じまして、近隣市町村のごみ処理施設や民間の処理施設への協力要請を行いまして連携していく必要があると考えております。

次に、仮置き場の確保並びに候補地につきましては、山鹿市内における仮置き場としまして、山鹿市が管理しております公共施設の駐車場やグラウンドを候補地として選定しております。

山鹿地域はカルチャースポーツセンターの駐車場やグラウンド、鹿北地域は鹿北グラウンド、菊鹿地域は菊鹿運動広場グラウンドや城北運動場、鹿本地域は鹿本グラウンドや下水道中継ポンプ場残地、鹿央地域は鹿央多目的総合運動公園グラウンド等を候補地として想定しているところでございます。

また、仮設トイレの設置につきましては、山鹿市が設置した避難所に仮設トイレを設置する場合、水害時の避難所30カ所に対して仮設トイレは48基、震災時の避難所22カ所に対して仮設トイレは14基ほど必要と考えております。

ただし、し尿等につきましては衛生状況が悪化しやすいため、平常時よりも迅速に収集する必要があると考えております。

最後に、定期的な計画の見直しの仕組みづくりに対してお答えいたします。

計画見直しにつきましては、平成26年3月に、環境省の震災廃棄物対策指針と水害廃棄物対策指針が統合され、新たに策定されました災害廃棄物対策指針や熊本県の指針を見据えますとともに、本年5月に改定しました山鹿市防災計画や山鹿市総合計画など、本市が作成する他の計画との整合性を図りながら、より実効性のある計画として今後見直しを行いまして、速やかに公表していきたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[ 7 番 北原 昭三君 登壇 ]

○ 7 番（北原 昭三君）

計画の中ではほぼ網羅しているということで理解をいたしました。

災害廃棄物処理計画をもとに、先般の台風15号発生時にも素早い対応をいただきましてありがとうございます。

しかし、作成から数年が経過をいたしておりますので、この実情に合った見直しをお願いいたします。

4 件目、健康マイレージの取り組みについてお伺いをいたします。

健康診断の受診やスポーツ活動の参加などでポイントをためると特典を利用できる健康マイレージの取り組みが全国で展開をされております。高齢者を初め健康に無関心な人にも積極的に健康づくりを行ってもらうために、健康診断の受診やスポーツ教室への参加など、自治体が定めた健康づくりを行った住民にうれしい特典があるものでございます。この健康マイレージ制度が全国で定着すれば、医療費や介護費の抑制につながると思われます。また、運動や買い物目的の外出機会がふえて、住民同士の活発な交流も期待できるものと思います。

私は、平成25年9月定例会で、この内容につきまして質問をいたしております。その答弁書を見ますと、熊本県内では当時実施している自治体はありません。導入につきましては、取り組んでいる他市の状況を把握した上で、今後判断してまいりたいというふうな答弁でございました。まずは、その把握された状況等についてお知らせをいただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。戸次福祉部長。

〔福祉部長 戸次 由夫君 登壇〕

○福祉部長（戸次 由夫君）

健康マイレージの取り組みについてお答えいたします。

他市の状況についてのお尋ねでございます。県内では現在、天草市と合志市が取り組まれております。

まず、天草市では、平成27年6月から「健康ポイント事業」と称し、市民の方のウォーキング大会や天草マラソン大会への参加、健康診断の受診などに対してポイントを与え、一定以上ポイントがたまった時点で、市内の登録店舗で利用できる商品券と交換するという制度を導入しておられます。

また、合志市では、「よかことこウォーキング」と称し、専用ウォーキングコースに設置されているチェックポイントにＩＣカードをかざすだけで、歩行距離だけではなく歩行した時間、消費カロリー、自分の定めた目標の達成率などをインターネット上で確認できるものでございます。

歩行距離につきましてはポイント化し、たまったポイントについては、買い物に



使えるような制度を計画されております。

両市とも、健康マイレージを通しまして、市民の健康づくりへの意識の高まりや健康生活の定着を狙いとする取り組みでございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[ 7 番 北原 昭三君 登壇 ]

○ 7 番（北原 昭三君）

先ほど県下 2 市の事業の紹介がありました。他県、他市のいろんなホームページ等を見ますと、どこの自治体も健康づくりに取り組むことを主体としてこの事業を導入をされております。健康づくりでポイントをためる健康マイレージ制度の導入について前向きな答弁を期待いたしまして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。戸次福祉部長。

[福祉部長 戸次 由夫君 登壇]

○福祉部長（戸次 由夫君）

山鹿市における健康マイレージの導入についてお答えいたします。

本市におきましては、保健師によります健康診断を受けていない方への受診勧奨訪問、重症化のおそれのある方への訪問指導や健康相談等を積極的に実施することによりまして、市民の皆様の健康づくりに対する意識の高揚を図ってまいりました。

一方で、誰もが気軽に、いつでも、どこでも、誰とでも取り組める「歩く」ことを基本としまして、市民の健康づくりへの意識の高まりや健康生活の定着化、ひいては、医療費の削減や保険料負担軽減につなげていくことを目的に、「山鹿市民歩こう運動」を広く市民運動化に向けて取り組みを進めているところでございます。

平成27年度は、広報やまがでの特集を組み啓発を行うとともに、運動のキャッチフレーズの募集を行い82点の応募があり、審査の結果2点を決定いたしまして、積極的な活用と市民への勧奨を促しているところでございます。

今後、多くの皆様が自分の健康に関心を持ち、健康保持につながる生活を実践し、継続できることを目指しまして、「山鹿市民歩こう運動」を中心に、庁内における推進体制及び民間団体との連携体制を整えてまいります。

将来的には、ウォーキングコースの設定、さらには、ウォーキングや健康診断の受診などの健康増進活動のポイント化、いわゆる、健康マイレージも視野に入れまして、市民の健康意識の向上、健診の受診率の向上につながるような山鹿市独自の

取り組みを展開してまいりたいというふうに考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

以上で、北原君の一般質問は終了いたしました。

————— ○ —————

散 会

○議長（藤原 弘君）

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

午後 2 時 00 分 散会

~~~~~

1 2 月 3 日 (木曜日)

平成27年（第5回）山鹿市議会12月定例会会議録

議 事 日 程（第3号）

平成27年12月3日（木曜日）午前10時開議

第1 質疑・一般質問

第2 委員会付託

○

発言通告

1. 富丸 洋一郎

一般質問

（1）山鹿市地域防災計画について

①避難情報の伝達について

②指定避難施設への誘導・経路について

（2）道の駅水辺プラザかもとについて

①施設整備について

②（株）鹿本町振興公社について

2. 芹川 正美

一般質問

（1）台風15号被害状況と支援対策等について

3. 永田 紘二

一般質問

（1）消防機能の充実について

（2）公民館機能について

4. 丸山 康昭

質 疑

（1）議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例

一般質問

（1）鹿央地域のまちづくりについて

○

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○

出席議員（20名）

1 番	服 部 香 代 君
2 番	富 田 弘 海 君
3 番	永 田 健 君
4 番	稲 葉 昇 君
5 番	富 丸 洋一郎 君
6 番	藤 本 峰 秀 君
7 番	北 原 昭 三 君
8 番	芹 川 正 美 君
9 番	藤 原 豊 君
10番	平 井 邦 廣 君
11番	吉 本 政 幸 君
12番	池 田 誠 一 君
13番	堀 茂 幸 君
14番	永 田 紘 二 君
15番	横 手 啓 介 君
16番	藤 原 弘 君
17番	太田黒 鐵 郎 君
18番	丸 山 寛 治 君
19番	寺 崎 勇 児 君
20番	丸 山 康 昭 君



説明のため出席した者

市 長	中 嶋 憲 正 君
副 市 長	池 田 永 実 君
教 育 長	堀 田 浩一郎 君
総 務 部 長	幸 村 英 星 君
消防本部消防長	内 野 輝 雄 君
市 民 部 長	阿蘇品 貴 司 君
福 祉 部 長	戸 次 由 夫 君
経 済 部 長	栃 原 栄 一 君
経済部首席審議員	西 田 博 之 君
建 設 部 長	原 弘 文 君
教 育 部 長	木 村 厚 男 君
市 民 部 次 長	阿 部 一 行 君

市 民 部 次 長	金 光 一 誠 君
福 祉 部 次 長	川 崎 美 明 君
経 済 部 次 長	早 田 順 二 君
水 道 局 長	阿蘇品 元 晴 君
総 務 課 長	大 林 秀 樹 君
防 災 対 策 課 長	白 田 俊 輔 君
長 寿 支 援 課 長	徳 永 謙 吾 君
農 業 振 興 課 長	才 田 豊 昭 君
建 設 課 長	吉 里 明 弘 君
社 会 教 育 課 長	瀬 口 慎 哉 君

○

事務局職員出席者

議 会 事 務 局 長	野 田 修 誠 君
局長補佐兼議会総務係長	森 田 英 美 君
議 事 係 長	小 山 天 君
書 記	高 木 善 彦 君

○

○

これより本日の会議を開きます。

○

○議長（藤原 弘君）

発言の通告があつておりますので、順次発言を許します。富丸 洋一郎君。

〔5番 富丸 洋一郎君 登壇〕

おはようございます。

議席番号 5 番の 富丸 洋一郎でございます。

今回は2問ほどお尋ねをしたいと思いますので、一問一答でお願いをいたします。

まず1点目は、避難情報発令の伝達方法について、お伺いをするものでございます。

私たちが住む地域は、合志川、そして菊池川、千田川と、この3本の川に挟まれた、いわば遊水地になるような以前からの場所でありまして、ここの私たちは水害とは切っても切れないような状況の地域であります。そしてまた、その平成24年の集中豪雨のときには、我が鹿本町中川においては、避難勧告が出されております。後日、談話で、地域の方のお話によりますと、防災無線による避難勧告がなされたようであるけれども、外は激しい雨音で締め切った屋内では聞こえなかったと。テレビで避難勧告を見て、初めて我が家の周辺が浸水しているという状況を知って、この屋内におっては、なかなか防災無線というのは住民に周知するには非常に難しいというようなことも考えられるというふうなことで、その当時の区長さん方は、非常に苦労されたということも聞いております。

そしてまた、それはこれまで経験したことのない大雨という表現をされるほどの豪雨でありましたので、防災無線が屋内で聞き取れなかったというのは無理もないなど、そう思った次第でございます。

そこで、今回、あつてはほしくないこういった自然災害でありますけれども、しかしながら、それは想定することのできないものでありますし、また、私たち当該地域の者にとっては、水害、水の恐怖というのは、非常にもう小さいころからそういった思いをしておりますので、この浸水、あるいは冠水、そういったことが起こると想定された場合の行政からの的確な避難指示、あるいはその伝達について、これは十分な検証をしていただきたいと、このように思います。

まず、私たちが避難場所、この地域の避難場所に指定してありますのは、鹿本市民センターであります。しかしこれは、ここは、あくまでも分田橋を通行できるという前提であります。もし分田橋の通行が不可能になった場合は、次の私たちの地域の避難場所は、鹿央市民センターに指定をしてあります。皆様もご承知と思っておりますけれども、この分田地区から鹿央の市民センターまで、この非常時に私も前回の平成24年のときに、実際中富地区のほうに行きますときに、3号線を当然上らなきゃなりません。3号線に出るまでの時間、そして3号線も渋滞、それで日ごろは15分ぐらいで行く目的の場所が1時間超かかったという現状を踏まえたときに、やはり私たちは本当に鹿央町の市民センターでいいのかなという思いがありますし、これはやはり私たちが日ごろ想定される中で、いち早く逃げるといいますか、水の災害から逃れるためには、どうしてももっと近くのそういった場所を探していただきたいと、こういったこともあります。

いずれにしても、これは昭和12年に建設が行われました分田橋が通行できれば、何らそういうふうな鹿央町のほうに移動しなくてもいいわけでありましてけれども、しかしながら、現状として、非常にいまだ分田橋の改良はいつになるかわかりませんし、実現するかもわかりません。私はもう絶えず分田橋の早期かけかえというのを一念に持っておりますけれども、しかしながら、これは国県が相手でございます。ですから、これを一概に市のほうにお願いをしても、鋭意努力はしていただいておりますけれども、なかなか道筋さえ見えないというのが現状であります。

そこで、やはり私たちが一番脅威に思うのは、平成24年の7月のときは合志川右岸、要するに平島の伊知坊橋の上の上流の右岸の堤防が決壊によって、温泉街の浸水というふうになったわけでございますけれども、これがもし左岸のほうの、あそこに大きな分田堰というのがありますが、この付近がもし堤防決壊になった場合、もうたちどころに我々の地域、4部落及び奥永地域も、その濁流の中に入ってしまう

うんじやなかろうかなという思いもいたしております。

ですからこそ、やっぱり避難場所の確保というのは、自分たちが車移動でもしなくてはなりませんけれども、やはり高齢者の方々をまず最初に優先的に連れていく、そういったことに関しては、車というのは、県道田底鹿本線が唯一の我々の移動手段の道であります。ですからこそ、やはりそこまで鹿央のほうまで行く必要がないような近隣の市町に、そういった場所の提供、そういったものも非常時にはお願いするべきではなかろうかなというふうに思っております。

また4点目に、私たちの地域でもやっと自主防災組織の立ち上げができました。まだまだできたばかりではありますけれども、今後ここに行政のほうからの指導、あるいはその組織そのものの育成に関して、十分なる行政のお力が必要かというふうに思われますので、その対応についてお願いをいたしたいと思います。

それから5点目に、災害が発生した場合、行方不明者の捜索などが必要になった場合、これは本年9月に発生しました茨城県常総市で鬼怒川の堤防決壊により家屋の流出、あるいは農業施設へ、そしてまた、農地に甚大な被害を及ぼした様子は、私たちがテレビで知ったわけでございますけれども、自分たちの住みなれた家屋が濁流の中で流されていく様子や救助を待つ、中には電柱にしがみついておられる方、あるいは屋根の上に上がって救助を待たれる方、さまざまな光景をテレビは放映して、私たちに非常に水が持つ恐怖というのを植えつけたというふうに思うわけでございます。

しかしながら、この常総市において、残念ながら行方不明というのが15～16人出ているというふうな中で、避難勧告が出し忘れもあったかもしれません、そしてまた後日、産経新聞の記事に明記してあったことでございますけれども、「常総市が行方不明者としていた15名の全員無事が確認されたが、発表まで3日間を要し、人数をめぐって県との連絡不足とともに、市などが個人情報保護の観点から、不明者の氏名公表を拒んだことが大きな要因だと。氏名を公表していれば、本人や家族の無事の情報を早期に得られた可能性も高く、その間、自衛隊や警察、海上保安庁など、苛酷な危険な捜索活動をしなくても済んだのでは」というふうに記載されてあります。

本市においても、類似の災害が発生した場合、個人情報保護法の運用についての取り扱いは検討されるのかどうか、非常事態にこの法がどんなに、ややもすると常総市のような状況になるとも限りませんので、その辺もお聞かせいただきたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。幸村総務部長。

[総務部長 幸村 英星君 登壇]

○総務部長（幸村 英星君）

富丸議員の一般質問の1点目、山鹿市地域防災計画についての災害発生時における避難情報の伝達及び避難場所等についてお答えをいたします。

本市におきましては、災害対策基本法に基づき、山鹿市地域防災計画を策定し、災害関連法律の改正や本市の実情等を踏まえ、毎年、計画の内容について見直しを行っているところです。

防災計画には、避難情報発令の基準につきまして、例えば河川氾濫が想定される際には、氾濫危険水位に達した場合に避難勧告を発令するといった明確な基準を定め、情報の伝達方法につきましても、防災無線やオフトーク放送はもとより、テレビ、ラジオや広報車などさまざまな方法によることとしており、この12月から本格運用を開始しましたやまがメイトも、先ほどご指摘のありました防災無線の欠点をカバーする上でも有効な手段と考えているところでございます。

市民の皆様には、災害が発生した場合またはそのおそれがある場合には、自主避難あるいは市の避難勧告などにより、各地域における最寄りの避難場所に避難していただくことが基本となります。

ご質問の、分田の三つの地区及び小柳地区におきましては、菊池川の増水や内水の状況等によっては、橋梁や道路を通行できないなど避難経路が寸断される事態も起こり得ますので、最寄りのひだまりや、渋滞などのご指摘等もございましたが、鹿央地区の鹿央市民センターなどの避難施設へ避難していただくことといたしております。

その際の避難経路につきましては、昨年、地元と協議を行いまして、安全を第一とした避難経路図を作成しまして、地元の皆様に説明し周知を行ったところでございます。ただし、最近の災害時における避難の状況を見ますと、本市域だけではなく、近隣自治体への避難等協力体制の構築も視野に入れまして、より安全な避難所の確保に向け検討する必要があると考えております。いずれにしましても、通行に支障が出る前の早目の避難が最も重要となってくるわけでございます。

また、河川氾濫時における浸水区域の本市の取り組みとしまして、国及び県がそれぞれ河川管理者となっております地域につきましては、浸水のシミュレーションが行われ、公表もされておりますので、本市といたしましては、防災マップや市のホームページなどを活用しまして、これらの情報を今後ともよりわかりやすい形で市民の皆様にお伝えしてまいりたいと考えております。

次に、自主防災組織の育成についてのご質問でございますが、本市といたしましては、自主防災組織の結成及び育成は、災害時の地域における自助・共助の体制づ

くりや防災体制の強化に欠かせない重要なものと認識をいたしております。例えば、平時には、地域の危険箇所や災害の被害想定、避難経路の確認、避難時に支援を要する方々に対する対応などを十分協議していただき、災害時には被害状況の連絡や組織としての避難行動、さらには避難行動要支援者の支援などに努めていただきたいと考えているところでございます。

自主防災組織の方からの雨量や河川水位の情報によりまして、住民避難のタイミングや避難場所としての適否について判断する場合も想定されますので、今後、本市といたしましても、自主防災組織の結成及び育成に一段と努めてまいり所存でございます。

続きまして、災害に伴う行方不明者と個人情報保護法の運用に関してでございますが、同法第23条の「生命、身体または財産の保護のために必要な場合」の例外規定の適用につきましては、被災者の状況等について十分に検討した上で、個人情報の公表の是非や公表する範囲等を含め、適時かつ適切な運用を図ってまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富丸君。

[5 番 富丸 洋一郎君 登壇]

○5 番（富丸 洋一郎君）

ご答弁ありがとうございました。

やはり私たちのこれは地域のみならず、この突発的な災害が発生したときに、いかに人命が尊重され、被害者もなく、そういう安全かつ避難ということを目的にして、行政からの地域指定の誘導や、あるいは発生時に対応されることを切に願うものでありますし、運用が開始されておりますやまがメイトが情報を知り得る手段として有効に機能すれば、それが一番ですけれども、発信する側と受ける側は、対応次第ではなかなか、年齢が現在農村地域によっては高齢化が進む中で、非常に画面を見るといふにふなれが多々あるかと思います。ですからこそ、この情報をいち早くお知らせするためには、やはり放送も十分活用しながらやっていただきたいというふうに思います。

そしてまた、答弁いただきました鹿本市民センターが困難なときには、現在、鹿央の市民センターへの避難場所になっておりますけれども、しかしながら、これが現状として移動が困難な場合は、近隣の自治体へ避難等の協力体制を検討していくという答弁をいただきまして、ぜひ前向きに検討していただきたいというふうに思います。

そしてまた、自主防災組織の今後の育成については、十分なるご指導をして、いざというときの状況下で機能するような形を、私たちも含めて頑張っていかなきゃならないというふうに思うところでありまして、これで1問目の質問を終わりたいと思います。

次に、2問目は、道の駅水辺プラザかもとについてお尋ねをしたいと思います。

11月5日、国土交通省は、水辺プラザかもとを道の駅に登録をされました。道の駅登録は全国で1079番目、県内で28番目で、山鹿市においては、道の駅かほくに次ぐ2カ所目であります。このことにつきましては、本定例会の開会日に中嶋市長より報告がありましたし、25日には国土交通省熊本河川国道事務所より登録証の伝達式が市役所で行われたという新聞にございました。そこでまた、中嶋市長におかれましては、地域の拠点として、さらに発展させるというコメントをされておりますし、非常に私どもも、その水辺のさらなる拠点づくりとして強い思いに期待をしているところでございます。

そこで1点目に、道の駅に登録されて、今後期待されるメリットはどのようなものがあるのかお尋ねしたいと思います。

1999年4月、国道325号線沿いに物産館や温泉、レストランなどを備えた複合施設としてオープンしたこの水辺プラザかもと、本市の東の玄関口に位置し、大いににぎわいを見せておりました。水辺プラザかもとは、類似施設や農産物を主力に販売する施設の台頭などで、近年は来館者の減少が続いている現状にいささか憂いを感じることもあります。

道の駅に登録されて、市長がおっしゃるように、拠点として発展させるためには建築後16年以上経過して老朽化が進む施設の整備が必要ではないかというふうに考えられます。また、考えられるメリットを最大限に生かし、農産業、観光の情報発信拠点施設となるよう施設の整備も急がれると思いますが、その点についてお尋ねをいたします。

2点目に、株式会社鹿本町振興公社についてお尋ねをいたします。

これまでも、何度となくこの鹿本町振興公社についてお尋ねをしてまいりました。この会社は水辺プラザかもとを管理運営するために、当時の鹿本町と町民による出資で、第三セクター株式会社鹿本町振興公社が設立された経緯があります。開館後は、毎年右肩上がり、一時は県内で来場者数が5～6番目に記録されたこともあったように記憶をいたしております。しかし近年は、利用者の複合施設に対する評価などが著しく変化も見せているようでありますし、来場者が非常に少なくなっているということも現状でございます。

そこで、本市においても、公の施設の指定管理制度導入により、水辺プラザかも

とも対象施設となり、当初3年間から5年間と契約期間の延長はありましたけれども、このことによって、指定管理者制度が導入されたことによって、若者にとっては将来性の設計の描きもなかなかできず、転職をせざるを得ない、そういった若者が事実ありますし、また、今、現状ではプラザのスタッフの中には、なかなか若い方々の姿を見えるというのも非常に少なくなりました。

現在も、株式会社鹿本町振興公社の筆頭株主は山鹿市でありますし、水辺プラザかもとの施設は、市の所有財産であります。もしも、入札で鹿本町振興公社が指定管理者になれなかった場合どうなるのかということを考えると、非常に不安を感じるところでありますし、また減少していく中で、今のスタッフで頑張っている状況を見ますと、何とかせないかんというふうな思いは、私以上に市長のほうが思っておられると思いますが、この鹿本町振興公社が道の駅水辺プラザを運営するに当たって、さらなる行政の支援は不可欠と思われますけれども、お考えをお尋ねしたいと思います。

将来的には、第三セクターの民営化も視野に入っているかと思いますが、今は水辺プラザの運営に全力で取り組んでいけるような育成指導、助言などが必要と考えられますが、今、検討されることがありましたら、お聞かせをいただきたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

道の駅水辺プラザかもとについての1点目、道の駅登録のメリットと施設整備についてお答えいたします。

議員、申されましたように、11月5日付で、水辺プラザかもとが道の駅に登録をいただきました。まず道の駅に登録いただくことのメリットにつきましては、現在、全国で1079カ所、九州で124カ所、先ほど申されましたように、熊本県で28カ所が道の駅に登録されており、道の駅という存在が認知されるようになり、水辺プラザかもとの知名度アップによる集客効果が最大のメリットと考えております。そのほか、全国の道の駅連絡協議会や九州・沖縄道の駅連絡協議会が開催するスタンプラリーなどのイベント実施による集客効果、大型駐車場増設による長距離運転手の方の立ち寄り率の向上での集客効果、さらには24時間情報発信機能の整備による山鹿市観光情報PRによる観光客誘導効果など、さまざまなメリットが考えられます。

次に、施設整備につきましては、道の駅に登録いただくためには、幾つかの条件があります。その内容につきましては、24時間道路利用者が道路情報や災害情報、

観光情報を入手できる施設であること。通過交通量から算定した必要台数の大型駐車場があること。公衆無線LANの環境を整備することになっておりまして、平成27年度中に整備を完了する計画としております。

さらに平成28年度整備予定としましては、24時間使用可能なトイレにオストメイト機能を持たせることを計画しております。これらの施設整備を優先しながらも、建築後16年以上を経過し、老朽化した施設、設備の補修を並行して進めながら、道の駅として誰もが訪れたいくなるような施設になるよう、整備を進めていきたいと考えております。

次に、2点目のご質問、株式会社鹿本町振興公社についてお答えいたします。

第三セクターである株式会社鹿本町振興公社につきましては、水辺プラザかもとの施設管理運営を目的として平成10年6月に設立されましたが、売上額が最高であった平成16年度以降、厳しい経営状況が続いております。しかしながら、ここ数年は、経費削減や新たな出荷者を確保するなど役職員一丸となって取り組まれており、徐々に経営も回復の兆しが見えてきている状況にあります。

水辺プラザかもとは、山鹿市内外住民の交流を通じて農業農村の活性化に資することを目的として設置した経緯を踏まえ、さらには、今回の道の駅登録を契機として、鹿本町振興公社の経営改善に向けての育成、指導、助言に努め、安定した自立経営が見込めるよう、そして道の駅水辺プラザかもとが地域活性化の拠点であることを十分認識し、支援を継続していきたいと考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富丸君。

[5 番 富丸 洋一郎君 登壇]

○5番（富丸 洋一郎君）

ご答弁ありがとうございました。

やはり道の駅の登録を見た水辺プラザかもとは、非常に今までのちょっと劣勢といたしますか、右肩下がりの状況から脱するには、非常にいい契機だと思いますし、そのためには、行政のさらなる支援が必要であろうというふうに思います。そしてまた、今、部長答弁の中にありましたように、施設の老朽化を迎えておる、それをやはり道の駅の設置の条件整備と併用して、その施設の整備も考えていきたい、やっていきたいというようなお言葉をいただきましたので、ぜひこの水辺プラザかもとが拠点施設として、もう一度クローズアップされるように、本市一丸となってやっていただきたいというふうに思います。

それから、通告はいたしておりませんでしたけれども、今回お尋ねをしました防

災対策などについてお聞きして、そしてまた、私たち地域の避難施設ひだまり、あるいはその次に鹿央市民センターというふうに指定してありますけれども、やはり私たちは身近な避難場所として鹿本市民センターひだまりというのが一番近いところであります。しかしながら、残念ながら分田橋は、今はこの状況であります。これは分田橋が通行可能というのが、これは前提であります。

そこで、私は市長にぜひお尋ねをしたいことは、私が平成24年9月の定例会の一般質問で、この分田橋の早期かけかえ実現に向けた取り組みなどについてお尋ねをいたしましたところ、「国交省九州整備局での菊池川河川改修の位置づけは高いもので、今後とも国県へ強く要望していく所存である」と。「国県、そして整備局、本省と、すぐに対応いたしておるところでございます。次期」、これは次ということでしょうけれど、「ということではなく、今行動する、そのことが必要であると思っております」と、非常に力強い決意を言っていただきました。

あれから3年たつわけでございますけれども、もちろん非常に財政が厳しい国県の中でも、そうすぐに対応できるということではないかもしれません。しかしながら、私は、地域の一人の人間として、この分田橋の早期かけかえをずっと言い続けてきている一人として、やはりこの早期かけかえの実現を目指すための期成会、そういったものをぜひつくっていただきたい。もう鞠智城の国営公園を目指した期成会、あるいは植木にある国道3号線の植木バイパスの早期実現に向けた期成会等々ありますけれども、やっぱり山鹿市にとってもなくてはならない橋であるならば、早急に何らかの対策もとっていただきたい。

目に見えるような形ならば、やっぱり地域の住民も安心して、このかけかえを今か今かと待ち望んであると思いますので、あれから3年たった現在、市長が感じておられる現状をお聞かせいただいて、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。中嶋市長。

〔市長 中嶋 憲正君 登壇〕

○市長（中嶋 憲正君）

ただいまの富丸議員の、分田橋かけかえの要望等についての、その後の経過についてお答えをいたしたいと思います。

分田橋、そしてまた、この路線が非常に交通量が多いと、非常に重要な路線であるし、またこの橋梁につきましても、かなりの年数がたっている、老朽化が進んでおるということでかけかえが必要であると。また、歩道についてもないということで、将来の通学路等々を考えますときに、非常に歩道の必要性等も強く感じておる

ところでございます。また、地域からの要望もしっかりと受けてきたところでございます。

ただいま富丸議員のお話ございましたように、この実現に向けての取り組みは、この富丸議員の要望以前からも、しきりに国県に対して取り組みをしてきたところでございます。

また、その後につきましても、毎年行われます菊池川の改修完遂期成同盟、流域でつくっておりますけども、この九州整備局への要望、また本省への要望、また九州治水への要望の折にも、しっかりとこのことについては要望をしてきておるところでございます。

さらには、熊本県も非常に大きな関係があるわけでございますので、熊本県に対しましても、しっかりと要望をしてきたところでございます。

さらに、堤防等につきましても不完全でございますし、洪水時にはあの地域が浸水すると、もう浸水常襲地帯になっておると、このことも非常に大きな問題であるというふうに捉えておりますし、橋と堤防について、あわせて国県に対してしっかりと要望を展開しているところでございます。

しかしながら、この全体の計画への位置づけ、あるいはまた今日、道路・橋梁等につきましても、長寿命化のほうに非常に大きなかじが切られておると。そういった中での要望を完遂すること、大変厳しさもあるわけでございますので、さらに心を新たにしながら、また、かつ地元の方々との気持ちを一つにしながら取り組むことが大事なかと、そんな思いをいたしております。

国土交通省におきましても、現在、堤防にはまだ至っておりませんが、河川の土砂の堆積の除去等々を通して災害を未然に防ぐ、そういった取り組みが分田橋の上下流においても、しっかりと取り組まれておるところでございます。

期成会につきましても、今日、市が、行政がつくった期成会もあるわけでございますけれども、今日これまで鹿北地域、あるいはまた今取り組みがあっております鹿央地区の期成会等につきましては、民間が、地域住民が立ち上がりながら、こういった期成会を立ち上げていく、そういったことが非常に国県に対する力といいますか、インパクトが強いと、そういったこともあわせて、ともに考えていただきたいなと、そんな思いをいたしております。

以上、答弁いたします。

○議長（藤原 弘君）

以上で、富丸君の一般質問は終了いたしました。

次の通告順により、芹川 正美君の発言を許します。芹川君。

[8 番 芹川 正美君 登壇]

○ 8 番（芹川 正美君）

こんにちは。

8 番議員の芹川 正美でございます。通告に従いまして、1 問お伺いをしたいと思います。

先日、政府報道による T P P 交渉大筋合意の決議に、本市農林業に与える影響と対策として、もう 1 問お伺いをする予定でしたけれども、国県の通達がまだ来ていないということでございますので、今回、1 問、県内に上陸しました台風災害についてお伺いをしたいと思います。

8 月 25 日に上陸いたしました台風 15 号は、農業関係に大きな被害をもたらしました。ビニールハウス施設被害、メロン・ナスの作物の被害、栗・梨等の果樹落下被害、それによります成木被害、畜舎倒壊被害、竹林等風倒木被害、これなどは来春の目に見えないところにも、タケノコの被害があるかなというふうに感じております。数多くの作物施設が被災し、これを処理する時間、費用も農家にとっては大きな負担になったように思います。米につきましては、やや良で済みましたが、栗・梨などにつきましては、年 1 作の作物によるものでございます。大きな痛手をされたことと思います。経費の支払い等、年末へ向けての課題も多いのではなかろうかと思うところです。

所管委員会での山林、林道の被害調査に出かけましたが、平成 9 年、そして平成 13 年の台風被害と同等くらいの被害ではなかったらと思うところがございます。

今回の補正予算にも上がっておりますけれども、台風 15 号の被害状況等、その支援対策についてお伺いをしたいと思います。よろしくお願いを申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

芹川議員の一般質問、台風 15 号被害状況と支援対策について、農業関係の被害状況と支援対策についてお答えいたします。

8 月 25 日に熊本県に上陸しました台風 15 号によりまして、熊本県では農業関係で 54 億 2000 万円の被害が確認されております。山鹿市では、収穫し始めた栗や梨、柿などの果樹がほとんど落果し、アールスメロンやナスなどの施設園芸の被害、ハウスや畜舎の倒壊、ハウスビニールの破損など農業施設に大きな被害をもたらし、農業関係で 7 億 3000 万円の被害が確認されております。

被害状況の内訳につきましては、野菜や果樹など農作物の被害面積が 427.5 ヘクタ

ール、被害額 2 億 299 万 9000 円となっております。次に、柿や栗などの樹体被害面積は 150 ヘクタール、被害額が 2 億 332 万 4000 円となっております。次に、ハウスや牛舎、倉庫などの農業用施設関係被害が 129 件、被害額が 3 億 2371 万 6000 円となっております。

支援対策につきましては、倒伏した果樹、全滅した野菜などの植えかえに係る経費、栗剪定に係る経費、破損した防虫、防風ネットなどの復旧に係る経費、倒壊したハウスの復旧、畜舎などの施設復旧に係る経費の支援について、本議会に提案をしております。

○議長（藤原 弘君）

芹川君。

[8 番 芹川 正美君 登壇]

○ 8 番（芹川 正美君）

先ほど申し上げました件ですけれども、林道の被災状況についてもお願いをしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

[経済部長 栃原 栄一君 登壇]

○経済部長（栃原 栄一君）

2 点目のご質問、林道被災状況と支援対策についてお答えいたします。

今回の台風では、市内のほとんどの林道が被災を受けました。特に鹿北、菊鹿地区の林道、作業道など、風倒木により通行不可能な被災状況が多く見受けられました。被害の多かった路線は、鹿北地区から菊池市へ通じる広域林道の八方ヶ岳西線と八方ヶ岳線では総延長 46.7 キロメートルのうち、約 60% 程度が被災を受けております。

復旧作業は、地域の方々に支援をいただきながら、人、車両の通行など日常生活に支障を来す路線を優先した対応を行い、倒木などの処理作業を実施したところで、現在は、広域林道の処理が完了し通行できる状況となっております。そのほかの林道につきましても、被害の大きい 2 路線を完了し、そのほかは被害が限られておりますので、随時処理を行っている状況であります。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

芹川君。

[8 番 芹川 正美君 登壇]

○ 8 番（芹川 正美君）

先ほど質問の中に、林道そして被害状況、そすと、市道について私が申し上げておりませんので、市道につきましても、所管でありますけれども、お尋ねをしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。原建設部長。

〔建設部長 原 弘文君 登壇〕

○建設部長（原 弘文君）

台風15号による市道の被害状況とその復旧状況についてお答えします。

市道の被害につきましては、暴風による倒木やカーブミラーなどの安全施設の倒壊により、通行ができない路線が多数発生する状況となっております。倒木につきましては、道路を塞いでいるなど、市民の皆様の生活に多大な支障を来していたことから直ちに対応を行い、122の路線、処理延長35キロメートルほどの倒木処理を行いまして、現在までに全て終了をしております。また、カーブミラーなどの安全施設につきましては、被災しました76カ所全てを発注しまして、現在、復旧を行っているところでございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

芹川君。

〔8番 芹川 正美君 登壇〕

○8番（芹川 正美君）

ご答弁、大変ありがとうございました。

喉元過ぎれば熱さ忘れるということわざもございます。台風はいつ来るとも限りません。2回、3回来ることもあると思います。今後、こういう施策については、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

人口ビジョン策定からにしましても、年々減少の一途をたどる本市の農林業に、維持活性化の起爆剤となるように、より一層の助成事業、前向きな政策をお願いを申し上げまして、私の質問を終わります。

○議長（藤原 弘君）

以上で、芹川君の一般質問は終了いたしました。

ここで、暫時休憩いたします。

午前10時51分 休憩

○

午前11時05分 開議

○議長（藤原 弘君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次の通告順により、永田 紘二君の発言を許します。永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

14番議員の永田でございます。

発言通告に基づきまして、一般質問を2点、一つは、消防機能の充実活動について、二つ目には、公民館機能についてお伺いをしたいと思います。一問一答でお願いを申し上げます。

まず、1点目の消防機能の充実についてお伺いをします。

これにつきましては、平成27年本年度の3月議会で、消防防災対策の体制についてということでお伺いをしておりますが、自主防災組織につきましては、先日の全協の中、地方創生の取り組みの中で、63組織を100組織にするという積極的な取り組みに期待をして、今回の質問から外したいと思います。

今回は、平成27年度に新しく山鹿市消防本部と、山鹿市消防団の中に機能別消防団制度が導入されました。消防という大きな枠組みの中で、うまくお互いが機能を果たして、山鹿市民の安全、安心を保障されるものだと思います。消防本部ができましたので、消防本部としての現状の考え方をお聞きをしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。内野消防長。

[消防本部消防長 内野 輝雄君 登壇]

○消防本部消防長（内野 輝雄君）

永田議員の一般質問、消防機能の充実についてお答えいたします。

山鹿市消防本部は、今年度から単独市消防本部として、山鹿市から出向の消防団係2名を加えた81名体制で業務を遂行しております。また、消防団につきましては、2102名が在籍しておりまして、人口比率から見ても、県内で高い団員数となっております。

消防団係が消防総務課に配置され、消防本部と山鹿市消防団の命令系統の一元化ができ、また災害情報や活動状況を共有することで、互いに連携強化につながっているものと考えております。

次に、機能別団員制度につきましては、今年度から施行し、7月1日付で52人が入団しております。しかし、当初予定しておりました90人に達しておらず、各地区で募集をしているところでございます。

なお、消防活動も平日昼間の火災と限定しており、事案も少ないことから、まだ顕著な実績等が見られないのが現状でございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

消防団の充実につきまして、2回目の質問をしたいと思います。

機能別消防団員の制度を導入した目的は、御存じのとおりだと思いますけれども、平日の昼間の団員不足を補充する手段として、消火活動の補助や消防積載車の運転など、後方支援体制を整備するものだと思います。

先ほどの報告からすると、機能別消防団の活動実績は、まだほとんどできていないということがわかりました。私が危惧するのは、山鹿市消防団20分団あります。1分団に4～5名ということで、90人という定数を出されておりますけれども、果たして消防活動後方支援ができるのかというようなことであります。少なくとも、分団に4～5人張りつけるということじゃなくて、140部あるそうでありますから、少なくとも部に1人ずつぐらい配置をして、消防活動後方支援をしたほうが、消防活動後方支援が円滑に行われると思います。

機能別消防団制を導入した本来の機能と役割を今後どのように考えられるかお尋ねしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。内野消防長。

[消防本部消防長 内野 輝雄君 登壇]

○消防本部消防長（内野 輝雄君）

2回目のご質問、機能別消防団員制度を導入した本来の機能と役割についてお答えいたします。

まずは、機能別団員についてご説明いたします。

本市の非常備消防体制の状況につきましては、全国的にも同様ですが、被雇用者が増加していることで、昼間の火災において消火活動する出場人員が年々減少している状況がありました。そのような状況を受けて、活動団員不足を補完する手段として、現在、各分団で地域の団員経験者等の希望者を募り、平日昼間の火災に出場できる団員を確保すべく、本市に機能別団員制度を導入いたしました。

機能別団員の機能と役割を整理しますと、活動範囲を原則分団内とし、分団ごとに4～5人を配置して、分団長指揮のもと、火災時に消火活動をすることとなっております。山鹿市消防団員の条例定数2200人の中には機能別団員が含まれており、まずは当初から予定しております90人を目指したいと考えております。

今後におきましても、消防団本部と協議を行いながら、機能別団員が昼間の火災において本来の機能が果たせるよう、状況や活動内容を見て、環境整備に努めてまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

山鹿市の消防団員数も減少している状況を見まして、消防団の消防力の低下がしていくということは、一番懸念されることであります。昼間の火災において、消防活動をする団員が減少しているのを補完するために、機能別消防団制度を導入したわけですから、今後十分に活動ができるような体制をつくっていただきたいなと思います。

特に消防機能につきましては、消防本部長からいろいろお話を聞きました。機能別消防団が52人、消防団員は消防定員の枠の中であるということ、それから平成27年度に条例改正をされています。2200人に団員条例改正をされています。機能別消防団員なり非常備消防団員の指揮命令権は団長にあるということであります。その団長は、市長が任命をします。

すなわち消防本部は、一部は命令権があるかもしれないけど、基本的には情報連絡、情報支援という機能しか果たせないのかなという気がします。すなわち山鹿市の防災対策については、きょうも富丸議員からも話がありました。先日も服部議員、それから稲葉議員からも質問がっておりますけれども、防災対策について総合的に考える必要があるのかなという気がします。

地区レベルでは、自主防災組織も結成をされております。将来は100%にするという話であります。ここで市長にお尋ねをしたいわけでありまして、常備消防、これは消防本部、非常備消防、消防団、機能別消防団の消防のつながり、連携していくことは十分にわかりました。横のつながりをしっかり、自主防災組織も含めたところで、市を一本化して、防災体制に取り組むべきだろうというような気がしますので、市長のお考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。中嶋市長。

[市長 中嶋 憲正君 登壇]

○市長（中嶋 憲正君）

ただいまの永田議員のご質問、自主防災組織を含めた防災体制についてお答えいたします。

永田議員のご指摘の自主防災組織を含めた防災体制につきましては、さきの東日本大震災の例から見ましても、市が一丸となって災害に向き合う姿勢が大事であると考えております。市民の安全安心を第一とし、市の各部局がともに考え、行動していく所存でございます。

しかしながら、行政のみではその対応に限界があることも事実でございます。今後は、本市といたしましても、自助・共助・公助の理念のもと、自主防災組織と、それぞれの組織が連携し、その力を最大限に発揮できる環境を整備することで、より強固な防災体制づくりを推進してまいりたいと考えております。

以上、答弁いたします。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

本来は、4回目の質問をしたいわけですが通告しておりませんので、何で今回機能別消防団に限ってお伺いをしたかという背景を、ご報告させていただきたいと思います。

自主防災組織、今63組織です。私どもの地区では、100%今でき上がっております。お互いの連携を十分にとられて、防災活動もされておりますが、自主防災組織の中に消防団OB、もしくはそれに似た自衛消防団というのをはめて活動をされているわけであります。

ただ、こういう話がありました。「隣で火事がありよつとたいな」で。「消防団が一人もおらんとたい」で。「消防団OBな何人もおった」と。しかしいざといったときに、消防積載車を運転すらできんというのが自主防災組織であります。それを踏まえて、機能別消防団を部落別につけた方がいいんじゃないかということ、それから自主防災、機能別消防団、消防団の横の連携をうまいぐあいに組み合わせられんのかなというようなお話があったので、

その辺をしっかりと踏まえて、防災対策の一本化を図っていただきたいなということで、お願いをしておきたいと思います。

まず、2点目の質問をお伺いをします。

公民館機能、これは活動もひっくるめてでありますけども、お伺いをしていきたいと思います。

現在、公民館活動は、平成24年度から条例を改正をして、今の活動ができているという理解をします。と申しますのは、合併してすぐ、平成18年の6月議会ですけれども、公民館活動の活性化について一般質問をしております。そのときは、旧山鹿市は地区公民館制度、旧4町は分館制度、すなわち自治公民館を中心とした分館制度、だから情報の流れが、旧山鹿市の場合は地区公民館に流れて自治公民館に流れる、旧4町の場合は、直接自治公民館に流れて、公民館長も設置をして、支援費用等についてもばらばらで出していたということだと思います。

現在の自治公民館の活動と地区公民館の活動内容、機能についてお伺いをしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

永田議員のご質問、自治公民館と地区公民館の現状についてお答えをいたします。

まず初めに、自治公民館の現状でございますが、自治公民館は社会教育法第42条に基づき、町内会や集落を単位として自主的に設置された約250館が活動をしております。自治公民館では、地域住民相互の連携と親睦を図りながら、地域リーダーの育成やスポーツや文化の振興、環境保全などの活動を、地域に密着して、その機動力を生かし、地域課題の解決に向けたきめ細やかな活動が行われているところでございます。

次に、地区公民館の現状でございますが、自治公民館が主に町内会や集落単位での活動を中心に行っているのに対しまして、地区公民館は校区、地域単位での活動を中心に行っております。本市では、社会教育法及び山鹿市公民館条例に基づき、市が直接12の地区公民館を設置しているところでございます。

それぞれの地区公民館では、自治公民館と連携を図りながら、公民館講座や地域づくり講座などの社会教育活動の企画・運営、公民館報の発行などを通じて、地域づくりのための人材育成を初め、体育祭や祭りによる交流促進といったさまざまな事業に取り組まれているところでございます。

また、年に2回開く山鹿市地区公民館連絡協議会では、地区公民館長と公民館指導員が一堂に会しまして、各地区公民館が活動報告を行うとともに、先進的な取り組みについて意見交換等を行っているところでございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

公民館機能についての2回目の質問をします。

自治公民館と地区公民館の流れについてはわかりました。現時点で、地区公民館を中心とした活動がなされているようでございますけども、じゃ、地区公民館として機能なり、活動なり、役割等はどういうものがあるのかを教えていただきたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

[教育部長 木村 厚男君 登壇]

○教育部長（木村 厚男君）

永田議員のご質問、地区公民館の機能についてお答えをいたします。

社会教育法第20条では、「市町村その他一定区域の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする」と定義をされております。

このように地区公民館に求められている機能は多岐にわたっているところでございます。

この設置目的を達成するために、先ほど申し述べたさまざまな事業の実施を初め、先進事例の研究や情報交換などが活発に行われているところでございます。

また、まちづくりに対する要望が多様化、高度化する昨今の社会情勢の中で、地区公民館には、それぞれが対象とする区域内の身近な課題を、地域住民が互いに協力し、地域みずからで解決することのできる地域コミュニティーの充実と強化という新たな機能が求められており、少子高齢化や過疎化が進行する中、地区公民館の果たす機能は今後ますます重要になってくると思われれます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

公民館機能について3回目の質問をいたします。

先ほど報告がありました地区公民館を中心に、地域コミュニティーの充実の強化をすると、これが非常に重要な役割ですよという話であります。山鹿市公民館条例が最終的に、ずっと改正されてきているんですけども、平成26年9月22日に条例改正がされております。

その条例の中に、別表1、2というのが表記されているんですけど、別表1、2は、地区公民館とはということで、12の公民館、山鹿、米田、川辺、ずっと行って鹿央まで、公民館として住所も明記されて、地区公民館はこの12カ所ですよというのを明示されております。

別表2というのがあります。これには、公民館の使用料だとか会議の使用料、研修料、電気代とかいうのが、それぞれの公民館ごとに明記をされております。ただ1カ所だけ山鹿地区公民館だけは、その明記がされてません。ということは、山鹿地区公民館だけは、普通の地区公民館のような活動ができなかったと、できなかったというよりもできないという状況であったということであると、私は理解をしたわけでありまして、公民館機能が条例どおり発揮されるために、じゃ、山鹿地区公民館を今後どがんすつとかなということを、ちょっとお尋ねしておきたいなと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

永田議員のご質問、山鹿地区公民館の今後についてお答えをいたします。

山鹿地区公民館の活動拠点の確保については、さきの9月定例会で「ふさわしい候補地について検討していきたい」とご答弁を申し上げたところでございますが、その後、改めて山鹿地区公民館のご要望をしっかりと聞きした上で、既存施設の活用を前提に利活用可能な施設を候補として選定いたしました。そしてそれらの施設を面積、立地条件、インフラを含めた周辺環境、経費、長期的に安定した使用が可能かどうかなど七つの観点から比較検討を行い、山鹿地区公民館がこれまでの活動内容や地域性に応じた活動を行う上で、最も適切と判断された施設を選定しているところでございます。

現在、山鹿地区公民館と協議を行いながら、来年4月の移転を目指して検討し、準備を進めているところでございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

公民館機能について4回目の質問をします。

条例化されている公民館機能は、山鹿地区公民館だけ機能を果たしていなかったと。幾度となく地区公民館設置については、質問もありましたし、検討しますという報告がありました。

先ほど部長の話の中では、4月には新しい場所でオープンするというお話でありましたけども、こういう背景を踏まえて、じゃ、教育長はどういう考えを持っておられたのか、今後どういう考えで取り組んでいかれるのか、その辺をお尋ねしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。堀田教育長。

[教育長 堀田 浩一郎君 登壇]

○教育長（堀田 浩一郎君）

永田議員のご質問にお答えをいたします。

ただいまの答弁にありましたように、公民館が果たす機能は今後ますます広い範囲に及び、社会教育、地域づくりなどさまざまな分野で重要な役割を担っていただくことになると思っております。

そのような社会情勢の中で、山鹿地区公民館の皆様方には、これまで大変ご不便をおかけし、まことに申しわけなく思っているところでございます。山鹿地区公民館の活動拠点づくりにつきましては、これまでも長年にわたって山鹿地区公民館と協議を行ってきたところでございます。大変お待たせいたしておりますが、今般、公民館の要望にかなう施設について、めどがついたところでございます。今後は条例改正を初めとしまして、さまざまな手続を必要とする案件でございますので、間違いのないように慎重に進めさせ、来年4月の移転を確実に実現させたいと思っております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

おおよそ山鹿地区公民館は、4月にオープンできるということを理解をしました。何で教育長にわざわざ出てきてもらって答弁していただいたかというのは、条例が決まっているじゃないかと、条例に基づいて仕事できとらんじゃないかと、そうい

うチェックは当然部長、教育長がしとかないかなとかなというような気がしました。

それからもう一つ、これはもう質問じゃなかですけども、きのうのバイオマスの話で、富田議員から質問がありました。部長も答弁がありました。市長からも答弁がありました。今までやってきたモデル地区、分別生ごみについては、地域を広げてバイオマスセンターでやりますよという方向づけで進んできたと私たちは理解をしておりますし、そのために、6000万円かかるか7000万円かかるかわかりませんが、そういう施設までつくった。

答弁の中では、今、栃原部長、下水道汚泥とか、そういうやつを使いたいという話もありましたけども、なら汚泥がどれだけできて、どれだけ費用がかかっているのか、そこら辺まで調べての答弁だったのかなという気がします。それはもう知れたるものだと思います。

それが6000万円、7000万円とはかえられんというような気がしますし、特にそういうものが、市長の答弁の中にはごみをゼロにする、施設はつくらんと、しかし、施設をつくらざるを得んごつなつた。分別をして生ごみはバイオマスでやろうというまで進んできたのが、一遍にきのうの質問の中で変わったわけですね。

議員さん全部がびっくりしていると思いますし、そういう経過は十分踏まえて、市民の意見をもらって出てきている議員さん方には、所管委員会でもいい、どこからでも、その方向性なり、きのうの答弁も方向を検討しますならよかったけど、やりますという答弁をもらいました。ちょっと少し配慮が足らんのかなという気がしましたので、その辺を執行部にしっかりお願いをして、質問を終わります。

○議長（藤原 弘君）

以上で、永田君の一般質問は終了いたしました。

次の通告順により、丸山 康昭君の発言を許します。丸山君。

[20番 丸山 康昭君 登壇]

○20番（丸山 康昭君）

20番、丸山 康昭です。

質疑1点、一般質問1点、行います。

まず質疑でございますけども、議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する

条例の一部を改正する条例、このことにつきまして、統合校の名称の決定の経緯について説明をお願いをいたします。

以上です。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

丸山議員の質疑についてお答えをいたします。

今回の条例改正につきましては、米野岳中学校校区4小学校の統合校の名称を、本年6月議会でご議決いただき、山鹿市立学校条例の一部を改正する条例において、仮称としておりましたが、今般、正式に、平仮名の「めのだけ小学校」と選定いたしましたので、ご提案するものでございます。

統合校の開校につきましては、統合校の名称を初めとして、開校までに検討する項目がございます。検討するに当たっては、地域の皆様方の意見等を広く伺って統合校に反映させるため、統合予定の4小学校区の校区長や囑託員代表など地域住民代表者12名、小学校や保育園の保護者代表24名、学校代表9名の合計45名で組織する開校準備委員会を設置し協議を行っております。

また開校準備委員会の中で、統合校の名称や校歌、校章、通学体制、教育課程など専門的に検討するため5つの部会を設置し、部会ごとに協議を行っておりますが、統合校の名称につきましては、総務部会で協議を行ってまいりました。

統合校の名称選定までの経緯につきましては、総務部会の中で、まず名称選定の方法について協議が行われました。協議の中で、統合校の名称を地元地域から広く募集するということで、ことしの7月末から8月末にかけて米野岳中学校校区の全世帯や学校職員を対象に募集を行いました。

その結果、応募がありました105点、35の校名案から、総務部会で3点に絞り込みがなされました。その3点は、漢字の「米野岳」、平仮名の「めのだけ」、漢字の「八千代」でございます。その後、総務部会の中で、各部会員でこの3点を持ち帰り、地元や会員等に意見を聞いた上で、最終的な選考を行うこととなりました。

総務部会の各代表の意見といたしましては、応募数の多い漢字の「米野岳」がよいのではないかという意見が多くありました。また、協議の中では、新しい小学校ということで応募数は少数でありましたが、平仮名の「めのだけ」は既存の学校と区別がしやすく、小学校低学年にも親しみやすいのではとのご意見もございました。

それぞれ、案についてさまざまな議論がありましたが、最終的に総務部会として、中学校との一貫性をあらわすとともに、子供にも大人にも優しく、わかりやすいと

いうことで、平仮名の「めのだけ」が選定されたところでございます。

この総務部会での選定に基づいて、統合校の名称案が開校準備委員会に提案をされましたが、開校準備委員会でも協議する中で、漢字の「米野岳」がよいのではとの意見が出されました。同委員会でもさまざまな意見が出され、十分な協議がなされましたが、結果として、総務部会での決定を尊重するか、改めて開校準備委員会で採決し名称を決定するのかという名称決定の方法について、挙手により決定することとなりました。

採決では、総務部会の決定を尊重することについて、多くの委員の挙手があり、開校準備委員会としては総務部会の決定を尊重するという形で、統合校の名称が平仮名の「めのだけ」に決定がなされました。

教育委員会といたしましても、地域住民の代表者から成る開校準備委員会において、5カ月を超える協議の中でさまざまな論議をいただいた上での検討であり、これを尊重し、統合校の名称を平仮名の「山鹿市立めのだけ小学校」と判断したものでございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

丸山君。

[20番 丸山 康昭君 登壇]

○20番（丸山 康昭君）

私は、新聞を見て初めて知ったというような状況で、総務文教委員会あたりには事前にお話があったのかもしれませんが、先ほど永田議員からもお話がございましたけども、非常に議会のほうの知らないことが多いのかなと。

今、山鹿市議会では、議会を活性化するという意味から、毎月全員協議会がなされておることだけのご承知だろうと思います。以上のことだけ申し上げて終わります。

一般質問に入ります。鹿央地域のまちづくりについて質問をいたします。

昨年6月、鹿央出身の市職員で鹿央地域の活性化について検討する委員会の組織をつくるならということで、一部の職員で進めていましたが、小学校統合問題が問題化し実現できませんでした。

そこで、昨年12月議会の一般質問で、山鹿市の人口増対策として、鹿央地区を熊本市のベッドタウン化とした住宅施策等について質問をいたしました。中嶋市長は、鹿央地区の史跡や農産物、伝承行事などを紹介され、住みやすい地域であり、熊本市に近く、熊本市へのベッドタウン化にならないか、そういう思いを持っているとの答弁でございました。

その後、執行部と話し合いを重ねる中で、本年４月に総務部長をトップとし、鹿央地域づくりプロジェクトを立ち上げていただき、今日まで定期的に打ち合わせが行われています。

これまでの取り組みについてお尋ねをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

丸山議員の一般質問、鹿央地域の活性化、特にプロジェクトの部分につきましてお答えをいたします。

鹿央地域につきましては、ご案内のとおり、本市の南西部に位置し、岩原古墳や肥後古代の森、康平寺などの歴史資源と緑多き豊かな自然を有する地域でございます。

農業が基幹産業でございますが、若者の人口流出が続き、過疎化が進行して地域の活力が減退しつつあると認識をいたしております。また、インフラの整備状況につきましても、特に道路整備が十分ではないため、買い物や通勤に支障を来している面が見受けられます。

そこで、このような地域課題への対応策を検討するため、議員も述べられましたとおり、本年４月に市長の命を受けまして、総務部長を座長とし、総務部の職員に鹿央地域在住の職員を加えました鹿央地域活性化プロジェクト会議を立ち上げたわけでございます。この会議は、鹿央地域の現状とポテンシャルを踏まえ、将来に向けた地域振興策・活性化策を探るための会議という位置づけをいたしております。月１回のペースで、これまで７回の会議を開き、活性化に向けて具体策の検討を行ってまいりました。

検討に当たりましては、人の活性化、農業の活性化、施設の活性化の３点を軸に、生活利便性を高めることや地域資源を生かした交流人口の拡大などを目標に、短期・中期・長期の施策として整理をいたしたところでございます。特に、道路整備や鹿央里山周辺の整備、日本遺産登録との連携などが重要であろうと考えております。

今後のことでございますけれども、以上のような検討案の中から事業効果の高いものを厳選しまして、可能なものから実施に移してまいりたいというふうに考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

丸山君。

[20番 丸山 康昭君 登壇]

○20番（丸山 康昭君）

どうもありがとうございます。

今、答弁の中でもございましたが、道路整備等の問題については、大変重要な課題として議題になっておるかと思います。その辺のところについて、建設部長のほうから何かございましたら、ご答弁いただきたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。原建設部長。

[建設部長 原 弘文君 登壇]

○建設部長（原 弘文君）

鹿央地域の道路整備状況についてお答えいたします。

鹿央地域の道路状況につきましては、市道幅員拡張や歩道設置、また側溝の整備など、生活道路や通学路の整備を計画的に進めておりますが、県道を含めてみますと、他の地域に比べ、全体的に整備水準が低いと言えます。中でも主要生活道路であります県道山鹿植木線については、幅員の狭い箇所が複数あったり、歩道の未整備区間があるなど多くの問題を抱えております。そのため、本年8月に地元の沿線住民の方が主体となった期成会を立ち上げられており、今後、早期完成に向けまして熊本県への要望活動を強化されると聞いております。

また、本市から熊本市への大動脈であります国道3号が昼夜を問わず渋滞するため、これを解消するためのバイパス、国道3号植木バイパスの整備が急がれているわけですが、本市に最も近い区間であります1工区が現在未着工となっている現状でございます。これにつきましても、国や熊本市に対して要望するための民間団体による期成会の立ち上げを目指して、現在、関係機関と協議を進めている状況でございます。

本市としましても、熊本都市圏に近いという鹿央地域の地理的優位性を生かし、関係機関や地元期成会とも連携しながら、主要幹線道路の早期整備を目指してまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

丸山君。

[20番 丸山 康昭君 登壇]

○20番（丸山 康昭君）

鹿央地域活性化プロジェクト会議ができていることを、地域の方々にも知ってい

ただき、今後多くの意見を求めていただくなればというようなことで、今回ご報告をいただいたところでございます。

鹿央地区だけの問題ではなくて、山鹿市全体から考えても、今後人口増対策というのは非常に大切なものだろうというふうに思います。そういう意味からも、特に若い人、あるいは高校生、中学生、今後20年、30年後に山鹿に住んでもらう人たちの意見も十分に反映をさせていただくなればというふうに思っております。

今、全国で高校生等によるまちづくり会議が活躍をいたしております。一例ですが、北海道の石狩市、また東日本地区では、震災後、気仙沼市や南三陸町等で活発に行われております。また、宇都宮市の高校生の取り組みについては、栃木県のほうも関心を寄せて、本年度から取り組みにかかっているというようにも聞いております。また、三重県の桑名市は、中学生、高校生によるところのまちづくりの会議がなされておるようでございます。また、福井県の鯖江市では、女子高校生に市長から委託をして、また本年度からは市長と高校生が一緒になって、まちづくりをやるというようなことが先般のテレビでも放映されておりました。

そのようなことから、今後やはり20年、30年先の人たち、山鹿市で生活をする人たちの意見を十分に取り入れていただきたいというご要望も申し上げておきます。

また、鹿央地区では、菊池台地の水が利用できない土地については、農業後継者も少なく、今後、荒廃が予想されております。この辺のところも十分に検討していただくなればというふうに思っております。

また、先ほど道路の問題等についてもお話をいただきましたけれども、市道については積極的に取り組んでいただいておりますし、県道につきましても昨年度から岩原地内の道路等につきましては、バイパスあたりをとということで建設課でも十分検討していただいて、8月には期成会もできたということで、今後進んでいくのかなというふうに思っております。

また、植木バイパスにつきましては、なかなかこれ進まなくて、当初は平成10年だったですかね、新しくできました新5カ年計画の道路整備計画の中でできたと思います。そういうことで、地元の代表10名入れられ、学者を1名、行政から7名というようなP I方式というようなことで、要するに地域の意見を取り入れるということでやられましたので、早くできるものと思いましたがけれども、3工区ございませけれども、植木の渋滞緩和をするためには、1工区、亀甲のインターの入り口から、通称舞尾というところまでが1区でございませけれども、これが一番にできるものと思っておりましたけれども、現在のところ、土地区画変更の申請すらできてなくて、ただ予想図だけというような形で終わっております。

17年間のうちでできたのが、2工区の舞尾のところから、3号線に今出ている途

中までということで、2300メートルができたということです。3工区については、本年度から北バイパスから西里のほうについて用地買収ができております。これも熊本市からの西回りバイパスが平成29年3月には、3号線に出るということでございますので、西里から北バイパスまでの工事を急ぐというような形で、今、国土交通省は急いでおようでございます。

そういうことで、2工区がなぜこんなに早くできたかというのは、やはり地元からのかなりの要望があったものと、それから地元の県会議員さんがかなり働きかけをやったということは、やはり地元が一生懸命やらなければなかなか難しいのではないかと。これは最近の県の事業にしても国の事業にしても、そういう方向があるようでございますので、ぜひ早期解決のためには、市が一生懸命頑張ってくださいというふうに思います。

植木バイパス線については、熊本市が中心になってやっておるところの中に、市長と議長が入っておられるというような話も聞いておりますけれども、やはり議会、あるいは住民あたりを巻き込んだところの活発な推進をぜひお願いして、熊本市に通勤可能な道路網を整備していただきたいというふうに思います。

一応、要望として、お話をさせていただいております。

市長のほうに、一つだけちょっとお尋ねをしたいと思います。

人口問題研究所の推計によりますと、山鹿は45年後の2060年度は、2万8000人というようなことでございます。やはりこれから先、人口増をどうやって図っていくかが一番の課題だろうと思いますけれども、45年後、市長さんとしては、大体中嶋市長としては、どのくらいを想定されて、今後どのようなまちづくりをされるのか、ちょっとお尋ねをしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。中嶋市長。

〔市長 中嶋 憲正君 登壇〕

○市長（中嶋 憲正君）

丸山議員の3回目のご質問にお答えいたします。

先ほど部長たちが答弁しましたとおり、鹿央地域には特有の課題や有望な可能性があります。それらに対する施策を着実に実施することで活性化を図りたいと思っております。今後、住民ニーズや地域との協力体制、費用対効果などを整理しつつ、全庁的な取り組みとして進めてまいりたいと考えてございます。

ところで、山鹿市全体の発展には、各地域の特徴を生かした取り組みが不可欠でございます。菊鹿地域ではワイナリー構想が、鹿北地域では新養蚕構想が進んでおりますけれども、鹿央地域にも岩原古墳や康平寺、県立装飾古墳館など独自の歴史

遺産があり、また、国道3号線沿いにはJA鹿本の本所や夢大地館など、農業地域を象徴する拠点施設が立地するほか、何と申しまして熊本市に近いという地理的優位性がございます。このような点を最大限に生かしながら、地域の活性化を図ることが大事であると思います。

各地域が力を持つと同時に、それぞれの役割を果たし、地域が山鹿市を支える柱となり、市全体の浮揚・発展につながる、それこそが本市が取り組んでおります定住自立圏構想の考え方でございますし、人口減少の歯どめにつながるという思いから、今般の鹿央活性化プロジェクト会議の設置を指示したところでございます。

今後は、鹿央地域活性化プロジェクト会議を初め、将来の地域を担う若者たちも参画いただき、地域の魅力と可能性を生かした施策を検討し、住民の皆様の期待に応えられるよう、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

最後にお尋ねでございました、平成45年の人口をどう見るかということでございますけれども、これは先般皆様方にお示ししました人口ビジョン等々にも示しておりますように、国の施策では2万8000人という数字が出ておりますけれども、本市は3万8000人を維持していく、そういった思いを持って、しっかりと取り組んでまいり所存でございます。

以上、答弁といたします。

○議長（藤原 弘君）

丸山君。

[20番 丸山 康昭君 登壇]

○20番（丸山 康昭君）

さきの人口ビジョンの中で、人口問題研究所の推測によりますと2万8000人ということで、当山鹿市は45年後、2060年を3万8000人と設定されておられました。実は、私、せんだって、鹿児島のある市長さんと大学の先生と3名でまちづくりについて話す機会がございました。その市は、12万6800人だったと思いますけれども、人口統計の10年前の35年後には、9万3000人になるというような統計が出ているけれども、私はどのくらい今思っているかというような市長さんのお尋ねでございました。私も大学の先生も、余り少なく言っても何だし、多く言ってもというようなところで、「10万人ですか」というようなお話をしましたところ、「現在の人口よりも多い13万人を想定しておる」というようなことでございました。

というのは、やはり人口が下がり出したら、もうなかなかとまりはしないと。そうじゃなくて、今いかに、どれだけいいまちづくり、住みやすいまちづくりをつくるか、それが課題だと。5年後には13万人に絶対するんだというような意欲で、鹿児島市よりも住みやすいまちづくりを目指しておると。実際、市民の方々にお聞き

すると、鹿児島市よりも住みやすいんだというようなお話でございました。

私も名刺をいただきまして、3面になっておりまして、10枚の写真と、いっぱい小さい字で書いてありますので、肩書かなと思ったところが、全部地元のPRでございました。そして頭には、広報営業本部長というような形で、市長さんの名刺をいただきましたけども。本当に非常に中嶋市長と同じように熱い人でございましたけども、やはり目標設定を高く持っていないと、今5万4000人のやつが3万8000人だということになると、だんだん下がってしまうだろうと思います。

今後、菊鹿の問題、それから介護の問題とか、いろいろいいことがあっております。そういうものに含めて、鹿央地域あたりも熊本市のベッドタウンとして、これから目指すとするならば、やはりもう少し高い目標を持って、誇りの持てる住みやすい山鹿市をぜひ積極的に、市長がトップに立ってやっていただきたいというのが願いでございます。

今回、鹿央のプロジェクトに鹿央地区を一番知っている幸村総務部長を充てていただいたことに、まず感謝をしながら、今後このプロジェクトが市全体の人口増対策等につながることを期待して、質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（藤原 弘君）

以上で、丸山君の質疑・一般質問は終了いたしました。

これをもちまして、通告による質疑・一般質問は全部終了いたしました。

これにて、質疑・一般質問を終結いたします。

○

日程第2 委員会付託

○議長（藤原 弘君）

日程第2、委員会付託を行います。

議案第94号から議案第121号までについては、お手元に配付いたしております付託表のとおり、それぞれの常任委員会に付託いたします。

○

散 会

○議長（藤原 弘君）

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

午後0時07分 散会

~~~~~

1 2 月 1 1 日 (金曜日)

## 平成27年（第5回）山鹿市議会12月定例会会議録

### 議 事 日 程（第4号）

平成27年12月11日（金曜日）午前10時開議

- 第1 議案第94号 山鹿市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例  
議案第95号 山鹿市職員退職手当支給条例の一部を改正する条例  
議案第96号 山鹿市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例  
議案第97号 山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例  
議案第98号 山鹿市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例  
議案第99号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例  
議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例  
議案第101号 山鹿市社会体育施設条例の一部を改正する条例  
議案第102号 山鹿市立小・中学校体育施設の使用に関する条例の一部を改正する条例  
議案第103号 山鹿市立保育園条例の一部を改正する条例  
議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第5号）  
議案第105号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）  
議案第106号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）  
議案第107号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）  
議案第108号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）  
議案第109号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）  
議案第110号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第1号）  
議案第111号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第1号）  
議案第112号 山鹿市基本構想  
議案第113号 工事請負契約の締結について  
議案第114号 財産の譲渡について  
議案第115号 財産の譲渡について  
議案第116号 財産の譲渡について  
議案第117号 財産の譲渡について  
議案第118号 公の施設の指定管理者の指定について  
（山鹿市山鹿老人福祉センター等）  
議案第119号 公の施設の指定管理者の指定について

- (山鹿市菊鹿健康福祉センター「ひまわり館」)
- 議案第120号 公の施設の指定管理者の指定について  
(山鹿灯籠民芸館)
- 議案第121号 公の施設の指定管理者の指定について  
(山鹿市民交流センター)
- 議案第122号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第123号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第124号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第125号 人権擁護委員の推薦について

(委員長報告)

討 論

採 決



#### 本日の会議に付した事件

- 第1 議案第94号 山鹿市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第95号 山鹿市職員退職手当支給条例の一部を改正する条例
- 議案第96号 山鹿市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第97号 山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例
- 議案第98号 山鹿市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第99号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例
- 議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例
- 議案第101号 山鹿市社会体育施設条例の一部を改正する条例
- 議案第102号 山鹿市立小・中学校体育施設の使用に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第103号 山鹿市立保育園条例の一部を改正する条例
- 議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算(第5号)
- 議案第105号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第106号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)
- 議案第107号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)
- 議案第108号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第109号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)
- 議案第110号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算(第1号)
- 議案第111号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算(第1号)

- 議案第112号 山鹿市基本構想
- 議案第113号 工事請負契約の締結について
- 議案第114号 財産の譲渡について
- 議案第115号 財産の譲渡について
- 議案第116号 財産の譲渡について
- 議案第117号 財産の譲渡について
- 議案第118号 公の施設の指定管理者の指定について  
(山鹿市山鹿老人福祉センター等)
- 議案第119号 公の施設の指定管理者の指定について  
(山鹿市菊鹿健康福祉センター「ひまわり館」)
- 議案第120号 公の施設の指定管理者の指定について  
(山鹿灯籠民芸館)
- 議案第121号 公の施設の指定管理者の指定について  
(山鹿市民交流センター)
- 議案第122号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第123号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第124号 人権擁護委員の推薦について
- 議案第125号 人権擁護委員の推薦について  
(委員長報告)

討 論

採 決

日程追加

第2 意見書案第2号 複数税率による軽減税率の導入実現を求める意見書



出席議員（20名）

|     |           |
|-----|-----------|
| 1 番 | 服 部 香 代 君 |
| 2 番 | 富 田 弘 海 君 |
| 3 番 | 永 田 健 君   |
| 4 番 | 稲 葉 昇 君   |
| 5 番 | 富 丸 洋一郎 君 |
| 6 番 | 藤 本 峰 秀 君 |
| 7 番 | 北 原 昭 三 君 |
| 8 番 | 芹 川 正 美 君 |
| 9 番 | 藤 原 豊 君   |



|     |    |   |   |   |   |
|-----|----|---|---|---|---|
| 10番 | 平  | 井 | 邦 | 廣 | 君 |
| 11番 | 吉  | 本 | 政 | 幸 | 君 |
| 12番 | 池  | 田 | 誠 | 一 | 君 |
| 13番 | 堀  |   | 茂 | 幸 | 君 |
| 14番 | 永  | 田 | 紘 | 二 | 君 |
| 15番 | 横  | 手 | 啓 | 介 | 君 |
| 16番 | 藤  | 原 |   | 弘 | 君 |
| 17番 | 太田 | 黒 | 鐵 | 郎 | 君 |
| 18番 | 丸  | 山 | 寛 | 治 | 君 |
| 19番 | 寺  | 崎 | 勇 | 児 | 君 |
| 20番 | 丸  | 山 | 康 | 昭 | 君 |

○

説明のため出席した者

|                         |       |    |   |   |   |   |
|-------------------------|-------|----|---|---|---|---|
| 市                       | 長     | 中  | 嶋 | 憲 | 正 | 君 |
| 副                       | 市     | 池  | 田 | 永 | 実 | 君 |
| 教                       | 育     | 堀  | 田 | 浩 | 一 | 君 |
| 総                       | 務     | 幸  | 村 | 英 | 星 | 君 |
| 消防本部                    | 消防    | 内  | 野 | 輝 | 雄 | 君 |
| 市                       | 民     | 阿蘇 | 品 | 貴 | 司 | 君 |
| 福                       | 祉     | 戸  | 次 | 由 | 夫 | 君 |
| 経                       | 済     | 栃  | 原 | 栄 | 一 | 君 |
| 経済部                     | 首席審議員 | 西  | 田 | 博 | 之 | 君 |
| 建                       | 設     | 原  |   | 弘 | 文 | 君 |
| 教                       | 育     | 木  | 村 | 厚 | 男 | 君 |
| 山鹿市民医療センター<br>事務部長兼医事課長 |       | 飯  | 田 | 啓 | 詩 | 君 |
| 市                       | 民     | 阿  | 部 | 一 | 行 | 君 |
| 市                       | 民     | 金  | 光 | 一 | 誠 | 君 |
| 福                       | 祉     | 川  | 崎 | 美 | 明 | 君 |
| 建                       | 設     | 中  | 原 |   | 忍 | 君 |
| 水                       | 道     | 阿蘇 | 品 | 元 | 晴 | 君 |
| 教                       | 育     | 大  | 森 | 健 | 司 | 君 |
| 総                       | 務     | 大  | 林 | 秀 | 樹 | 君 |
| 防                       | 災     | 白  | 田 | 俊 | 輔 | 君 |
| 国                       | 保     | 佐  | 藤 | ア | キ | 君 |

---

事務局職員出席者

議 会 事 務 局 長                      野 田 修 誠 君  
局長補佐兼議会総務係長            森 田 英 美 君  
議 事 係 長                            小 山            天 君  
書                                          高 木 善 彦 君

---

午前10時00分 開議

○

○議長（藤原 弘君）

これより会議を開きます。

この際、お諮りいたします。

永田 紘二君から、去る12月3日の本会議における発言について、会議規則第65条の規定により、発言した内容に認識の誤りがあったとの理由により、発言の一部を取り消したい旨の申し出がありました。

この取り消し申し出を許可することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、永田 紘二君からの発言の取り消し申し出を許可することに決しました。

後ほど速記を調査の上、措置することにいたします。

○

日程第1 議案第94号～議案第125号

○議長（藤原 弘君）

日程第1、各常任委員会に付託してありました議案第94号から議案第121号まで及び議案第122号から議案第125号までの全案件を議題といたします。

○

議案第 94号 山鹿市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例

議案第 95号 山鹿市職員退職手当支給条例の一部を改正する条例

議案第 96号 山鹿市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例

議案第 97号 山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例

議案第 98号 山鹿市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例

議案第 99号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例

議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例

議案第101号 山鹿市社会体育施設条例の一部を改正する条例

議案第102号 山鹿市立小・中学校体育施設の使用に関する条例の一部を改正する条例

議案第103号 山鹿市立保育園条例の一部を改正する条例

議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第5号）

議案第105号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）

- 議案第106号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）  
議案第107号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）  
議案第108号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）  
議案第109号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）  
議案第110号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第1号）  
議案第111号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第1号）  
議案第112号 山鹿市基本構想  
議案第113号 工事請負契約の締結について  
議案第114号 財産の譲渡について  
議案第115号 財産の譲渡について  
議案第116号 財産の譲渡について  
議案第117号 財産の譲渡について  
議案第118号 公の施設の指定管理者の指定について  
（山鹿市山鹿老人福祉センター等）  
議案第119号 公の施設の指定管理者の指定について  
（山鹿市菊鹿健康福祉センター「ひまわり館」）  
議案第120号 公の施設の指定管理者の指定について  
（山鹿灯籠民芸館）  
議案第121号 公の施設の指定管理者の指定について  
（山鹿市民交流センター）  
議案第122号 人権擁護委員の推薦について  
議案第123号 人権擁護委員の推薦について  
議案第124号 人権擁護委員の推薦について  
議案第125号 人権擁護委員の推薦について



○議長（藤原 弘君）

各常任委員長の報告を求めます。永田建設経済常任委員長。

[建設経済常任委員長 永田 健君 登壇]

○建設経済常任委員長（永田 健君）

おはようございます。

建設経済常任委員会から報告をいたします。

本定例会において、当委員会に付託されました議案8件についてご報告いたします。

去る12月4日、午前10時から本庁5階会議室におきまして、委員全員出席、執行

部に関係職員の出席を求め、委員会を開催いたしました。

議案審査に先立ち、杉平原線道路改良工事現場、鍋田団地における水洗化事業及び太陽光施設「熊本山鹿ソーラーパークC」建設予定地の3カ所を現地調査いたしました。

現地調査終了後、午後1時30分から委員会を再開し、最初に建設部所管の議案を、その後、経済部所管の議案を慎重に審査いたしましたので、その結果についてご報告いたします。

議案第98号 山鹿市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第5号）中所管、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第107号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第109号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第110号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第1号）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第111号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第1号）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第115号 財産の譲渡について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第120号 公の施設の指定管理者の指定について（山鹿灯籠民芸館）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、建設経済常任委員会の報告を終わります。

#### ○議長（藤原 弘君）

藤原市民福祉常任委員長。

〔市民福祉常任委員長 藤原 豊君 登壇〕

#### ○市民福祉常任委員長（藤原 豊君）

おはようございます。

市民福祉常任委員会12月定例会の委員会審査についてご報告いたします。

本定例会におきまして、当委員会に付託されました案件は、議案8件であります。

去る12月7日、午前10時から5階会議室におきまして、委員全員出席、執行部に関係職員の出席を求め、委員会を開催いたしました。

議案審査に先立ち、調査先を山鹿老人福祉センター、菊鹿健康福祉センター「ひまわり館」及び鹿央地域福祉センターの3カ所とし、現地調査を行いました。

現地調査終了後、午後１時30分から委員会を再開し、慎重に審査いたしましたので、その結果についてご報告いたします。

議案第96号 山鹿市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第97号 山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第５号）中所管、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第105号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第106号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第108号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第118号 公の施設の指定管理者の指定について（山鹿市山鹿老人福祉センター等）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第119号 公の施設の指定管理者の指定について（山鹿市菊鹿健康福祉センター「ひまわり館」）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、市民福祉常任委員会の報告を終わります。

**○議長（藤原 弘君）**

寺崎総務文教常任委員長。

〔総務文教常任委員長 寺崎 勇児君 登壇〕

**○総務文教常任委員長（寺崎 勇児君）**

おはようございます。

総務文教常任委員会からの報告を行います。

本定例会におきまして、当委員会に付託されました案件は、議案14件であります。

去る12月８日、午前10時から市庁舎５階会議室におきまして、委員全員出席、執行部に関係職員の出席を求め、委員会を開催いたしました。

議案審査に先立ちまして、現地調査を行いました。調査先の菊鹿小学校では、現在の児童数や学級編制などの概要説明と、新たに建設された校舎棟の説明を受けました。現場確認では、山鹿市産材を使用したぬくもりある室内や、昇降口にカメラを設置するなどの不審者対策などを確認いたしました。

現地調査終了後、午後１時から委員会を再開し、初めに教育部所管の議案を、その後、総務部所管の議案を慎重に審査いたしましたので、その結果について報告を

いたします。

議案第94号 山鹿市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第95号 山鹿市職員退職手当支給条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第99号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第101号 山鹿市社会体育施設条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第102号 山鹿市立小・中学校体育施設の使用に関する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第103号 山鹿市立保育園条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第5号）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第112号 山鹿市基本構想、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第113号 工事請負契約の締結について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第114号 財産の譲渡について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第116号 財産の譲渡について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第117号 財産の譲渡について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第121号 公の施設の指定管理者の指定について（山鹿市民交流センター）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、総務文教常任委員会からの報告を終わります。

#### ○議長（藤原 弘君）

以上で、各常任委員長の報告を終わります。

これより、委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありますか。

〔「質疑なし」と呼ぶ者あり〕

#### ○議長（藤原 弘君）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより、討論を行います。

討論の通告があつておりますので、発言を許します。丸山 康昭君。

[20番 丸山 康昭君 登壇]

○20番（丸山 康昭君）

20番、丸山 康昭です。次の3議案について反対いたします。

議案第100号 山鹿市立学校条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例、議案第113号 工事請負契約の締結について及び議案第104号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第5号）の（款）9教育費、（目）3学校建設費、委託料345万6000円の支出に対して反対するものです。その他の予算については賛成するものです。

この3案件は、全て米野岳中学校校区統合小学校に関するものです。

反対の理由。11月27日に鹿央住民382名の方から米野岳中学校校区統合小学校の事業費支出差しとめの提訴がありました。その大もとには、鹿央地域から学校がなくなることや防災安全上の問題等から、鹿央地域を中心とした3225名の方から反対陳情がありました。

このことから、今回の提訴は住民の声として大変重いものであると思います。判決が出るのを待つべきだと思います。

以上で、反対討論を終わります。

○議長（藤原 弘君）

以上で、通告による討論は終了いたしました。

ほかに討論はありませんか。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤原 弘君）

討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、採決を行います。

議案第94号から議案第99号までの6案件を一括採決いたします。議案第94号から議案第99号までの6案件に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、6案件は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第100号に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

[賛成者 起立]

○議長（藤原 弘君）

起立多数であります。よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。



次に、議案第101号から議案第103号までの3案件を一括採決いたします。議案第101号から議案第103号までの3案件に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、3案件は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第104号に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤原 弘君）

起立多数であります。よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第105号から議案第111号までの7案件を一括採決いたします。議案第105号から議案第111号までの7案件に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、7案件は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第112号に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第113号に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤原 弘君）

起立多数であります。よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第114号から議案第117号までの4案件を一括採決いたします。議案第114号から議案第117号までの4案件に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、4 案件は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第118号から議案第121号までの4 案件を一括採決いたします。議案第118号から議案第121号までの4 案件に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、4 案件は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第122号 人権擁護委員の推薦について、原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり同意することに決しました。

次に、議案第123号 人権擁護委員の推薦について、原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり同意することに決しました。

次に、議案第124号 人権擁護委員の推薦について、原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり同意することに決しました。

次に、議案第125号 人権擁護委員の推薦について、原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり同意することに決しました。

ただいま、意見書案1 件が提出されました。職員に配付させます。

〔職員配付〕

○議長（藤原 弘君）

お諮りいたします。

この際、意見書案1 件を日程に追加し、議題とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、意見書案1件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

○

日程追加

日程第2 意見書案第2号 複数税率による軽減税率の導入実現を求める意見書

○議長（藤原 弘君）

日程第2、直ちに議題といたします。

意見書案1件について、職員に朗読させます。

[職員朗読]

意見書案第2号

平成27年12月11日提出

複数税率による軽減税率の導入実現を求める意見書

地方自治法第99条の規定による意見書を会議規則第14条第1項の規定により提出する。

提出者

山鹿市議会議員 北 原 昭 三

賛成者

山鹿市議会議員 寺 崎 勇 児

山鹿市議会議員 藤 原 豊

山鹿市議会議員 永 田 健

山鹿市議会議長 藤 原 弘 様

現在、政府においては、消費税の軽減税率について「関係事業者を含む国民の理解を得た上で、税率10%時に導入する。平成29年度からの導入を目指して、対象品目、区分経理、安定財源等について、早急に具体的な検討を進める」との大綱のもと、その導入に向け議論が進められています。

そもそも、平成29年4月に予定されている消費税率の引き上げは、少子高齢化に伴い、現役世代が減り、高齢者がふえる中で、子供・子育て支援、医療・介護、年金の各分野

の充実及び社会保障の安定化に必要な財源を確保することを目的として実施され、引き上げによる増収分は全てそれら社会保障に充てることが決まっています。

消費税には景気の影響をあまり受けずに安定した税収が確保できる利点がある一方、所得に関係なく税率が適用されるため、低所得者の負担感が重くなる「逆進性」の問題があります。そこで、この増税による痛税感を和らげるとともに、消費税率引き上げに対して幅広く国民の理解を得るためには、軽減税率の導入が不可欠です。

軽減税率とは、食料品や生活に欠かせない品目の消費税率を標準の税率より低く抑える「複数税率」とされる制度です。

欧州の多くの国では、既に日本の消費税に相当する付加価値税で食料品などに軽減税率が導入されています。

また最近の世論調査でも、軽減税率の導入に賛成するとの回答が8割近くに上っており、国民の軽減税率の導入を求める願いが浮き彫りになっています。

そこで政府においては、下記の事項について実現するよう強く求めます。

#### 記

1. 複数税率による軽減税率の導入については2017年4月の消費税率引き上げと同時に  
行うこと。
2. 対象品目については、国民が受け入れやすく、痛税感を和らげる効果が高い食料品、  
加工食品など対象を幅広くすること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成27年12月11日

熊本県山鹿市議会

内閣総理大臣 安倍 晋三 様  
財 務 大 臣 麻生 太郎 様

#### ○議長（藤原 弘君）

意見書案第2号について、提案理由の説明があれば発言を求めます。提出者、北原 昭三君、ありませんか。

#### ○7番（北原 昭三君）

ありません。

#### ○議長（藤原 弘君）

この際、議案審査のため暫時休憩いたします。

午前10時27分 休憩

○

午前10時39分 開議

○議長（藤原 弘君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより、ただいま議題となっております案件について、質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「質疑なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております案件については、会議規則第37条第3項の規定により、委員会付託を省略いたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、委員会付託は省略することに決しました。

これより、討論を行います。討論はありませんか。

〔「討論なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、採決を行います。

意見書案第2号について、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

○

閉 会

○議長（藤原 弘君）

これをもちまして、本議会に付議されました案件の審議は、全部終了いたしました。よって、平成27年（第5回）山鹿市議会12月定例会を閉会いたします。

午前10時40分 閉会

~~~~~

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

山鹿市議会議長 藤 原 弘

山鹿市議会議員 平 井 邦 廣

山鹿市議会議員 藤 原 豊